

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

★MOH通信の役割★

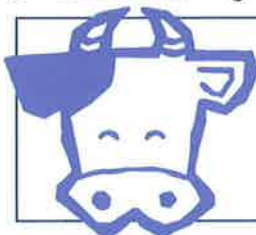
持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

M **循環**
→もったいない
他の生命を奪って得たものを使わせて頂く

O **共生**
→おかげさま
人は一人では生きられない、環境によって生かされている

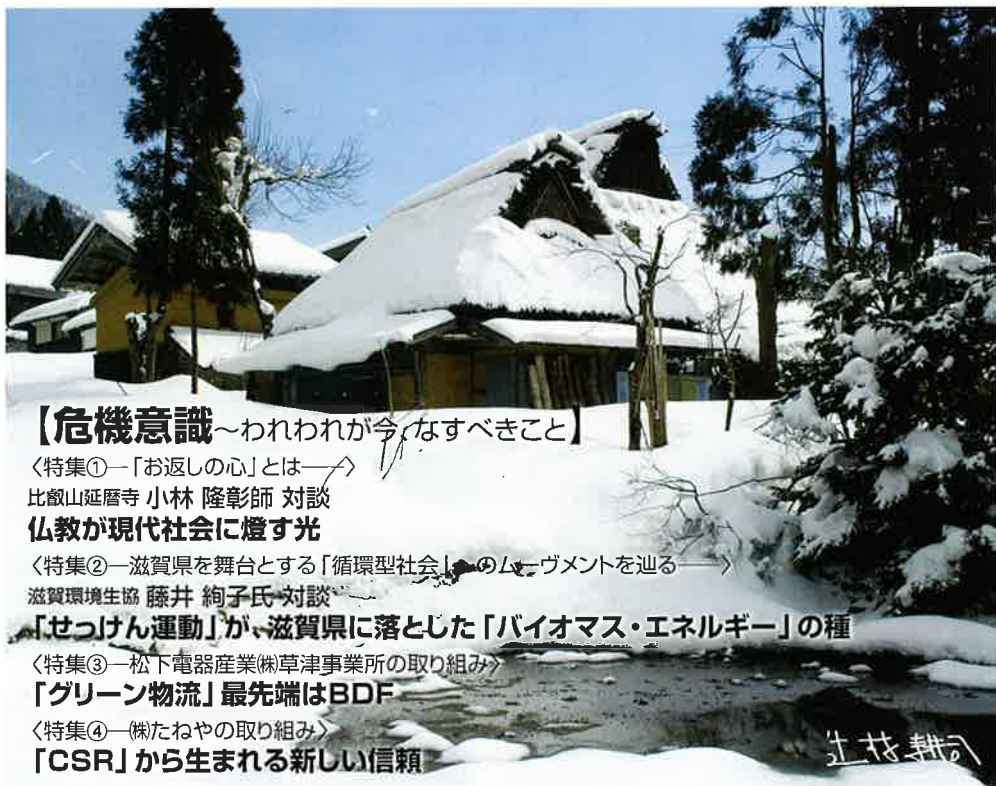
H **抑制**
→ほどほどに
欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

も う
M・O・H
通信 **15号**
2007
Winter



「M-O-H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします



【危機意識～われわれが今、なすべきこと】

〈特集①—「お返し的心」とは—〉

比叡山延暦寺 小林 隆彰師 対談

仏教が現代社会に燈す光

〈特集②—滋賀県を舞台とする「循環型社会」のムーブメントを辿る—〉

滋賀環境生協 藤井 絢子氏 対談

「せっけん運動」が、滋賀県に落とした「バイオマス・エネルギー」の種

〈特集③—松下電器産業(株)草津事業所の取り組み—〉

「グリーン物流」最先端はBDF

〈特集④—(株)たねやの取り組み—〉

「CSR」から生まれる新しい信頼

辻花耕



七本柳ヨシ松明

県産小麦100%「粘り」「こし」「つや」最高!

近江うどん三方よし

京都新聞 2006/12/20

食品製造業者でつくる滋賀県食品産業協議会と県製麺工業協同組合はこのほど、県産小麦を100%使ったうどんを開発した。粘り、こし、つやの三つが良いことから「近江うどん三方よし」と名付け、今春からの学校給食や百貨店などでの販売を目指している。

里川 使いながら川を守ろう

ミツカン水の文化センター 新美敏之事務局長

朝日新聞 2006/12/2

「春の小川はさらさら行くよ」の童謡「春の小川」は、明治・大正のころの渋谷、代々木あたりの河骨川（渋谷川の上流）をうたった

唱歌だが、この川は東京オリンピック前にとんが暗渠になった。春になると、スマレやレンゲが咲いた里川の消滅だ。これを少しでも復活できないだろうか。—略— 先般、滋賀県知事に就任した嘉田由紀子さんと数年前から勉強会を開いている。

〈高月教授の紙上特別講義—ごみ減量1〉

排出量を減らすことが地球環境を守ることに直結するのです

朝日新聞 2006/12/10 31ページ

“マイバックを持参するだけで、家庭ごみは1割近く減るのです”『受講生のみなさんへの宿題』あなたが家で取り組んでいる、ごみ減量のための工夫を教えてください。(500文字程度で)宿題への投稿は〒530-8211 朝日新聞大阪本社教育班へ。

目次——「危機意識」われわれが今、なすべきこと」

M・H特別対談 比叡山延暦寺 仏教が現代社会に燈す光 小林隆彰&森建司……………3	ショート・ショート ふれあい 第五回『まっさらのノート』 中井二三雄……………12
M・H対談 滋賀県環境生活共同組合 「せっけん運動」が、滋賀県に落とした 「バイオマス・エネルギー」の種 藤井絢子&森建司……………13	M・Hレポート—1 松下電器産業(株)草津事業所 「グリーン物流」最先端はBDF ……………21
M・Hレポート—2 練たねや 「CSR」から生まれる新しいもの ……………27	M・Hレポート—3 賀茂場 我が家は銭湯、四代目! ……………35
〈商家の家訓の話 第二回〉CRSと三方よし 末永國紀……………39	「MOH」を伝える環境カレンダー 高月紘……………41
藤樹先生に学ぶその3 井上昌幸……………45	木地山から椋川へちよつと訪村(漫画) オノユキ……………47
わーんと泣いた 今関信子……………51	MOH川柳選手権 結果発表 ……………53
講演日記 ……………57	露の臺 三山 元暎……………59
本の紹介 ……………60	3つの危機と一つの期待 つじむらこことみ……………61
読者の声 ……………62	

「おお、怖かった」

ただいま

(シーン)

えっ、真っ暗ヤン

(誰もいない)

おっかしいなあ

(4時間経過)

おそいなあ

(携帯すれど誰も出ず)

ひょっとして

(事故? 失踪?)

まんがいすって事もある

(心の準備)

お父んの写真は遺作展

(整理せな)

お兄の本は漫画喫茶

(きょうとんあるで)

お母んのMOHは私が継いで

(やる人おらんもん)

忙しなるなあ

(「帰ったよお」)

おお、よかった

とき

〈M・O・H特別対談〉

仏教が現代社会に燈す光

「お返し的心」とは――

M・O・Hの会の設立から、丸三年が経過しました。振り返れば、M・O・Hの活動を通じて、新しい時代づくりの実現は何かできたであろうかと、自問自答するばかりです。今後、環境倫理を軸とした循環型社会の構築に向けて、人間の幸せの定義を、様々な視点から問いかけていきたいと思えます。今回の特別対談では、1200有余年の歴史が息づく天台宗の総本山、比叡山延暦寺・長膺の小林隆彰師を迎え、宗教の観点から、現代社会の危うさと、それを救うための人間の心の有り様について、森代表がお聞きしました。



「今だけに捉われてはいけない」

森 国内の経済は、ここ10年近く好景気が続いておりまして、実際に誰が儲けているのかはよく分からないのですが、国の数値的には、そうなるんだぞ

M・O・H
インフォメーション

TV「比叡の光」

今回の対談の様子は、比叡山延暦寺が企画するテレビ番組「比叡の光」(34チャンネル、KBS京都、BBC)にて、2月4日と11日の日曜日、午前8時45分(BBC 7時45分)から放映されました。

■特別対談

小林 隆彰

比叡山延暦寺 長膺(ちやうろう)

森 建司

循環型社会システム研究所 代表

■延暦寺 一隅を照らす会館

■2007年1月12日



小林隆彰師(右)、森建司氏(左)、中央は不滅の法灯器

うです。我々はその恩恵を受けているのでしたが、一方で、環境問題をはじめ、資源の枯渇や教育の崩壊、社会モラルの悪化など様々な問題に晒されています。結局、現在の社会は、非常に大きな問題を孕みつつ成り立っていると思うのです。ですから、それによって社会が限界を迎えるまでに、何とか

我々人間の、営みの在り方を転換していかねばならないと思うのですが、経済を最優先とする今の現状では、「もったいない」は死語として扱われます。また、科学技術が問題を解決してくれるという声もありますが、私はそうは思いません。むしろ、科学技術の発達は、人間をいよいよ破滅の方向へと向かわ

せるのではないのでしょうか。そうなる、もはや宗教の力でしか、社会を救う方法はないんじゃないかとも思うのですが、本日はぜひ、宗教の立場から、小林長騰の指導を賜りたく思います。
小林 偉そうなことは申し上げられませんが、基本的に仏教では、全ては無常であると言います。無常というのは「無くなる」ということで、無くなるけれども、また新しく再生される。しかも、それは縁によって、善が悪になることもあれば、その反対もある。つまり、固定したものは何もない、全て移り変わるといふ教えです。しかし、それを科学では、どんどん固定していつて一つの体系にしますね。途中で不具合があれば、これはもう不要だと、また新しい何かを固定していく。すぐに物の出番を終おしまうことが、科学であろうかと思うのですが、どんな物にも命があります。その生命を完全に使い切ることを、あるいは新しく生かしていくことを考えなければ、将来的に非常に危険ではなからうかと思えます。無常の教えから言えば、地球もいつかは滅びます。永久という訳にはいきません。



大きな物の見方で、今をたいせつに生きて欲しい

だとすれば、それをどうやって長持ちさせ、皆が争いをせずに生きていくかという方向で考えなければならぬと思うのですが、これはおそらく皆さん、そう思っただけで済むでしょう。

生命について、我々は人間がこの世に生まれてきたのは、前世があるからだと考えます。前世があつて、今生があつて、来世があつて、「三世」で命が継続している。仏教では「三千大千世界」と言いますから、地球だけではなく、もっと大きな世界があつて、おそらく人間は、死後に再び別の世界に行くの

ではないかと、こういう大きな立場で物を考えます。ですから、「今だけ」ということに捉われていない。しかし、これを今だけと考えると、最後は自分中心で利他的なものになってきます。人間の営みも同じことで、今だけという物の見方では、地球もそんなに長くもたないのではないでしょう。

うか。大きな物の見方、三世の見方、そういうことの基本を、皆が持つべきでしょう。

森 社会を構成する様々な要素の中でも、政治と産業が変わらなければ、社会は変わらないと言われます。しかし、政治は未来の人に投票権は無い、そして産業は、今現在、欲しいという人のために物を売っていかなければならぬ、決して次世代を考える仕組みにはなっていない。これを変えるには、選挙で投票する人、買い物をする人、一般の市民であり消費者である我々が

意識を変えなくてはならないのですが、この意識の改革というのは非常に難しいことで、何か目を覚ますような体験が必要じゃないかと思うのです。例えば仏教的に言えば、自分は生かされているということに気づくような。そこで、愚問かもしれませんが、人はどんな時に、生かされていると考えるのでしょうか。小林長騰は、過去に御自身が遭われた「仏縁」について書かれています、それがどのような体験であったのか、ぜひお聞きかせ願えますか。

「三世」の教えと「光」を見た仏縁

小林 私は実体験なので深く信じているのですが、多くの人はあまり信じません(笑)。7年ほど前に大病をしまして、首の骨や頸椎けいずいの中の神経を守る靱帯が固くなるという、モンゴル系のDNAを持つ人だけがかかる病気だそうです。それで手術を受けたのですが、その最中にミスがあつて、心臓が約7分間停止しました。2時間程度と言われていた手術が、6時間経ってもまだ終わらない。そのうち医者が見つ青な

顔で、初歩的なトラブルがありまして
：と、家族に説明したそうです。どう
もトラブルというのは、失敗という意
味らしいです(笑)。何があったかは、
尿を取る管を挿入する時に、膀胱に傷
がついて出血し、その血が固まって、
尿を止めてしまったらしいんです。と
ころがどんどん点滴しますから、身体
中が水で一杯になってしまつて、それ
が脳にまで回るともう駄目だと。私の
身体が膨らんでくるので、医者もそれ
にやっと気づいて、必死に処置をした
けれど、良くて半身付随、悪ければ御
免なさいだと。その前日には講演をし
ていましたから、家の者も非常に驚き
ました。しばらくすると、また医者が
やつて来て、今度は笑顔で、親指が動
いたから脳には回っていない、大丈夫
だと。翌日に、医者が私の病室に來ま
して、「小林さん、これはひとえに神仏
の御蔭です」と言ってます。

森 お医者さまがそう言われたのです
か。

小林 私が訴えるタイプの患者ではない
から、ということでしょうが(笑)。そ
れで、「それは私が言う台詞でしょう」

と申しましたところ、その医者は、「失
敗だったら医者を辞める覚悟をしてい
た」と言われました。しかし、それか
ら4日間ほど、天井を眺めたまま眠れ
ないんです。はたから見ればそうでは
なかつたらしいのですが、自分の意識
では寝ていない。何をしていたかと言
えば、「うしんかほほう運心回峰」といって、比叡山
の僧も歳をとり、山の中を歩く行がで
きなくなると、仏の前に座つて、頭
の中で歩くんです。それを運心
(心を運ぶ)と言つのですが、その
行をしているんですね。天井を眺
めながら、比叡山を歩く足許の石
ころまでが見えてきて、これは上手
くいくなあと思っていたのですが、
昼となく夜となく、傍らに医者のが
配を感じるんです。ここの病院は
随分、親切だなと思つておりまし
たら、実は危ない状態が続いてい
たそうです(笑)。それで4日目の
夜、急に天井が金色に輝き出しま
して、ちょうど三十三間堂(京都市)
の千一体の観音さまが、創建当時を
思わせる美しさと神々しさで、私の
視界に出たり入ったりするんです。
そばにいた弟子に

社会を救うには宗教の役割が大きく影響します

そばにいた弟子に、「お前、あれが見
えるか」と聞いたところ、「私には見
えませんが」と答えるものだから、こ
れはいよいよ自分も終わりだと。私
は神や仏は、以前から光だと思つてい
ますので、最後に仏の世界を見せられ
たのだろうと。それで、その観音さま
が消えますとね、今度は比叡山に祀つ
てある沢山の仏が見えてくるんです。



それまで絶えず拝んでいましたから、これは自分の潜在意識だろうと。そして今度は、亡くなった人が次々と出てくるんです。母、伯母というようにです。この伯母というのが、私が出家する時、「お前は来世があると思うか」と問うてきたことがあるんです。それで、「見たことがないから分らない」と言い返したところ、「坊主というのは、来世まで道案内する役割だろう」と、えらく叱られたんですね。これは正しいことを言われたと、その言葉がずっと

と心にありました。お経は、三世について書いてあります。それを読んでいながら信じられないというのは、大変に横着な話なんですよ(笑)。
森 しかし、見たことがないものは信じられないというのは、人間として至極当然のことですよ(笑)。
小林 ええ。ですが、そこから修行を積むうちに、段々とそれがそうではないと思えるようになり、昨日があつて今日があつて明日がある、単に今だけではないなど。昨日のことは取り返しが

つかないし、明日のことは何ともならないのだから、今日だけが頼りである、今をまともに生きておかなければ、というようなことを考えていたんですね。

森 その境地に至っておられたからこそ、光が見えたのでしょうか。

小林 境地に至ったかどうかは分かりませんが、本当に仏さまというのは光だつたな…と思います。仏教では、大日如来というのは太陽、つまり光なんです。世の中というのは、全て光によつて生かされている。今、森さんの顔が見えるのも、全て光の御蔭です。光という大きな力によつて生かされ、しかも明日はあると。これまで沢山のものを貰っている訳ですから、それに対して、お礼であるとか、感謝であるとか、少しでもお返しをしないと来世は危ないんじゃないかと、人生観が少し変わりました。ですから、今だけというのは危ない、必ず世の中を滅ぼすという先ほどの考えに至った訳ですが。しかし、これは私の思いだけであつて、実際にどうせよというのは、なかなか難しい。やはりそこには、感謝や祈り、お返しといった言葉が出てくるんじゃないかと思っております。



言葉というのは大事にしなければなりませんな

奪い合いの構造の中で、 「お返し的心」を持つ

森 今の経済人にこそ、その思いに至ってほしいですね。今だけではない、という言葉をお聞きして、私は近江商人の家訓をふと思いつかべたのですが、近江商人というのは、仏教の影響を強く受けていると言えますね。

小林 「三方よし」というのは、あきらかに仏教の思想でしょう。

森 今の経済社会も、三方よしが生きた時代に立ち返るべきだと思うのですが、仏教的な価値観で社会が成り立つ訳がないという意見もあります。これについて小林長騰はどう思われますか。

小林 非常に難しい話ですが、仏教界が大変遅れていると言われるのは、伝教大師が1200年前に、こうおっしゃったと昔からのまゝを教えるからです。仏教界では、前が無いと今が無い。ところが政界や経済界というのは、前

を潰しますね。前を消し去って、今を考える。生死流転しじゆうてんの世の中と言いますが、それは仕様が無いかもしれませんが、最後は、自分が消されるといふことにつながるでしょう。

全ての人類の歴史というのは、奪い合いの歴史だろうと思うのですが、奪い合う世の中だからこそ、宗教が生まれたのだと思います。宗教というのは、奪い合う中で、奪った分だけは返せなくても、せめて少しは返せと。返すことを先に考えます。朝、起きたら今日は何か返せるだろうか。我々は起きた途端に、既に何かを奪っているんです。人間同士でも、顔を見合わせて、相手に難しい顔をすれば、既にその人の心を奪っていることになります。この人怖い顔してるなど相手に思わせるのですから。言葉でもやさしい言葉を使うか、恐ろしい言葉を使うか。恐ろしい言葉を使えば、その人の心を奪っているのです。しかしながら、奪い合いの精神というのは、仕方の無いことで否定する訳にはいきません。その中で、どうすれば人間が豊かに、心を広くして生きていけるかと言うと、何かを返す。

返すとなれば、寄進、浄財とすぐにお金のことになるかもしれないませんが、それもその通りだし、人間の身体や声、言葉や心で返すとか、それを現代的に説いていくのが仏教であり、宗教でないかと思えます。

森 なるほど。私はお話を伺うまで、お返しのコトは何だろうと、分かるような分からないような思っていたのですが、それが納得できました。

小林 お返しをするのは、一人の人間として、個人の立場からだと思うのです。自分が今日、何を返せるかと。そこで、人を見たら必ず褒めようとか、そういうことをお互いに広げていくと、世の中はもう少しやさしくなるのではないのでしょうか。大きなことを言っても、人間はなかなかそうはできません。会社に行けば、悪いものを良いと言わなければならぬこともあるでしょう。他社のものが良くても、悪いと言わなければならぬこともある(笑)。他が潰れることが自分の幸せにつながる。ひいては他を潰すことが、という考え方を、個人の心から変えていくべきなのです。

「定年得度」の すすめと 六つの義務

森 私事で恐縮ですが、過去に私自身も脳梗塞で2カ月間、寝たきりの状態になったことがありました。光は見えてこなかったのですが、後は死ぬのを待つばかりと思った時に、自分はこれで良かったのかという思いがあつて、もう会社の仕事は後に任せ、復帰後は、自分を非営利の世界で、MOHの運動をやるのだと思つたんです。今ちょうど、団塊の世代が大量に定年を迎えようとしていますね。中には私と同じようなことを考えておられる方が多いと思うのですが、この世代に、心を変え、世の中を変える役割を期待できるのではないのでしょうか。

私たちの世代が世の中のお役に立つんですね



小林 おっしゃる通りです。私はいまふ前から、「定年得度」ということを進めているんです。得度するというのは、仏弟子になることを自覚することです

から、別に頭は剃らなくてもいいんです。得度すると、義務が出てきます。義務は六つありまして、一つは布施をしないこと。お布施はお金だけじゃなく、花を見て美しいなあと思うだけで、それは花に対するお布施になるんです。それから社会の規則を守れと。基本的には、殺すな、盗むな、嘘をつくなです。定年まではそうはいきませんが、それは許容範囲として、定年の世代になったら、そういうことを考える心に余裕がないと。そうでなければ、何のために生きてきたのかということになってしまふと思うんですね。だから、定年を



美しく老いる修行です

迎えたら、お返しの世界になるんだと言っている訳です。次は、辛抱をしなさいと。「忍辱」ですね。忍の字は、刀と心と書きますが、これは「しのぶ」というより「みとめる」という意味で、自分の心(頭)の上に、刃物があることを認める。そうすると、自然と自分のことを危ないと思えますから、自分の立場をきちんと認めて辛抱すると。次は、あと何年生きられるか分かりませんから、これから勉強(精進)する。次に、新聞をよく読む。最後はしっかりと考える。これが六つの勤めでありまして、それが

そのまま世間に対してのお返しになると言っております。

森 それは本当にいいことだと思えます。私の同世代を見ていると、そういう得度した状態に、手探りで近づこうとしている人たちが多いことに気づかされます。何となくですが、道を求めたくなるような心境になってくるんですね。

小林 もう競争社会ではないのですし、更には、脱(だつ)落(らく)の歳に入っているのですから。先はそう長くはないのに、年寄りが相変わらず若い人と同じような精神構造のままでは、醜(みにく)いですね。美しくありません。

森 私たち年寄りが得度の心になることによつて、例えば家庭で、子供たちに安心感を与えようということにもつながるのではないのでしょうか。

「誰かの為に」という生き方を

小林 もちろんそれはそうです。昔から日本

建築には、床の間があつて、そこには額や掛け軸が飾られていました。森さんのように浄土真宗のお宅であれば、仏壇があつて、その上に「無量寿」と書いた額が掛かっていると思うのですが、そういうものがあると、何も喋らなくても、家族の者を自然に教育してくれるんです。

森 なるほど。額の文字を毎日見ているうちに、子供は何が書いてあるのかと、一度くらいは興味を持つかもしれない。小林 そうです。何となく言葉が喋るんでしょね。私は、核家族が進んで、日本の家庭から仏壇が消えたことが、今の寒々とした社会を生んだ大きな要因だと思ふんです。ですから、息子さんや娘さんが結婚される時は、せめて観音像の一つでもいいから持たせるべきだと、申し上げるんです。

森 昔の高僧の言葉であるとか、誠の一字が書かれた額であつてもよいから、家庭の中に置くべきですね。最後にですが、天台宗の開宗から1200年を迎えられたということで、伝教大師がこの世をご覧になれば、どのようなご示唆をくださるでしょうか。

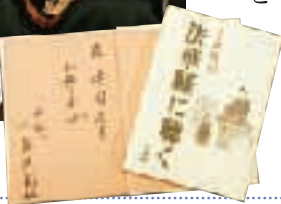
小林 伝教大師の言葉の中に、「己を忘れて他を利せよ」という言葉があります。学校では自分を大切にせよと習いますから、私も若い頃は、そんな馬鹿なことがあるかと思っていました。いまだに考えるのですが、自分を忘れることはできないけれども、ちよつと自分を横に置いと、そう解釈できるのではないかと思います。いつも自分中心にしか物を考えないから、ちよつと自分を横に置くと、人の立場や世の中が分かる。そうすると、人間は何のために生まれてきたのかという疑問につながると思うんですね。おそらく金を儲けて、幸せな結婚をして、というような答えが出てくると思うのですが。しかし、それと似たようなことは、人間でなくとも動物でもできるんです。人間は、誰かのために生きることには価値がある。と伝教大師はおっしゃっているんです。だから、今、自分があることは誰かの為になっているか。為という字を、自分の頭の上でなく、他の誰かに置く。

中には、国家や人類といった大きな事柄の上に置く人もいるかもしれませんが、そこまでいなくても、せめて一番近いところで、「誰かの為に」という生き方をせよと、おっしゃるのではないのでしょうか。

森 1200年前の言葉が、今の社会の中で生きていることを感じますね。その



誰かのために今日を生きましよう
著書「法華經に聴く」を手に談笑する両師



小林隆彰

この意味を、私たちは今一度、認識しなくてはいけないと思います。本日はどうもありがとうございました。

●こばやし りゅうしょう 1928年、香川県善通寺に生まれる。1952年、比叡山専修院卒業。1955年、延暦寺一山千手院住職。比叡山延暦寺執行、延暦寺学園叡山学院長、延暦寺学園所長など要職を務め、現在は延暦寺長騰。主な著書に「生きている観音經」(芳金聲堂)、「智証大師円珍」(東方出版)、「比叡の心」『花咲け 人咲けいのち咲け 歩けなくとも心咲け』(紫翠会出版)など。

●比叡山延暦寺 所在地 / (総務部) 滋賀県大津市坂本本町4220 〒520-0116
TEL: 077-578-0001 (代表)

http://www.hieizan.or.jp/

小林建司

●もりけんじ 1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長など。著書 / 「吃音はななる」(遊タイム出版)、「循環型社会入門」(新風舎)

ふれあい

第五回

『まっさらのノート』

中井 二三雄



人々は、なぜ新年になると、おすまししたり大騒ぎするのだろうか。小学生の僕には分からない。
平成18年12月31日23時59分59秒が、1秒だけ回って、翌日の平成19年1月1日になった。たけなのに……。

きれいな着物を着て、お節を食べ、みんな口々に、「おめでとっ」って言うんだろう。門松を立てて、お餅まで飾ってお祝いするのかな。

なぜなのかは、よく分からない。
お母さんに聞いても、「昔からのお祝

い事なのよ」と言うだけ。僕には全然理解できない。

そこで、自分でよあしく考えてみた。

そうか！ 分かったぞ。

新年は、まっさらのノートだからなんだ。

まだ、何にも書かれていない、自分の真の白いノート。

そこに、どんな夢を描いても、どのような希望を書いても自由なんだ。どんな年にしたいのか、自分で好きなように作っていけばいいんだ。

だから、人々は二年に一回、年の初めに当たって、気持ちを新たにし、希望に胸を膨らませるんだ。

よっし、今年も頑張るぞ！って。

中井二三雄

●なかい ふみお11949年、守山市生まれ。広告・出版・映像関係の仕事を経て、1976年からフリーライター。日本シナリオ作家協会理事、滋賀県文化振興事業団発行「湖国と文化」編集長。大津市在住。

〈M・O・H対談〉

「せっけん運動」が、滋賀県に落としした 「バイオマス・エネルギー」の種 過去から未来へ、滋賀県を舞台とする「循環型社会」へのムーヴ メントを、藤井絢子さんとともに辿る――

70年代の終わりにから80年代の始まりにかけて、滋賀県を動かし、国の政策にまで影響を及ぼした「せっけん運動」。その運動は、私たちの環境に対する意識を変えるところにも、市民運動の可能性を社会に示し、「持続可能なエネルギー」の種を、滋賀県に落とししました。せっけん運動を経て、愛東の地で始まった廃食用油のバイオ・ディーゼル燃料化再利用、そして菜種の栽培へと、常にその中心となつて活躍されてきた滋賀県環境生協理事長の藤井絢子さんを迎え、お話をうかがいました。



「むさぼるように本を読んでいた」藤井理事長

原点は「命」。琵琶湖の赤潮で、
初めて持った加害者意識

森 「せっけん運動※1）」や「菜の花エコ・プロジェクト(※2)」を通じて、藤井絢子さんのお名前をご存知の方は、日本中におられると思いますが、私が藤井さんについて一番に思うのは、よくぞ環境問題を全国的な社会運動にまで発展させられたということです。余談かもしれませんが、藤井さんがもし商人であつたなら、さぞや成功して

■対談

藤井 絢子

滋賀県環境生活協同組合 理事長
(環境省中央環境審議会委員・NPO法人菜の花エコプロジェクトネットワーク代表)

■森 建司

循環型社会システム研究所 代表

■ホテル ニューオウミ(近江八幡市)

■2006年10月24日

おられるでしょう(笑)。

藤井 森さんにお出会いすると、いつも褒められすぎじゃないかと思うのですが(笑)。私は最初から社会運動に関わっていたのではなく、原点は学生時代にあります。当時は、若者が様々な社会問題に対して敏感に反応し、嫌なもの嫌と言ひ、必要であれば行動に移す時代でした。だから、皆、哲学書を含め、物凄く本を読みましたし、青臭かったかもしれませんが、議論して意見を闘わせました。いつか自分も、先輩たちのレベルにまで到達して討論しようとして、食いつきの精神があったんです。

その中で、水俣の公害問題を知り、大きな衝撃を受けました。当時は高度経済成長のちょうど入り口あたりでしたが、その裏で、これだけ命がないがしろにされていると。ですから、環境問題というよりも、「命」の問題として、考えるようになったのが始まりです。

森 そこから滋賀県へ越して来られたことが、藤井さんの人生を大きく変えたと思うのですが、こちらへはいいつ頃？
藤井 25歳の時です。当時は琵琶湖の環境汚染だとか、そういうことは何も

考えていませんでした。ただ、自分たちが口にするものへのこだわりがあって、その頃、準備段階にあった湖南生協の立ち上げに関わるのですが、湖南生協の理事長であった細谷(卓爾)さんという方が、実はチッソ(株)の社員だった方で、何という運命的な出会いかと思いました。細谷さんは、74年に滋賀県知事に当選した武村(正義)さんとは大衆時代のご学友で、知事のブレイクも務めておられました。細谷さんは、「食べ物へのこだわりを生協の中で追い求めると同時に、琵琶湖という水源を抱えているのだから、環境の問題に向き

合わずにはいられない」ということをおっしゃったんです。思わず「本当にそう思います!」と答えていました。森 なるほど。そういう出会いがあったのですね。そうすると、その後には琵琶湖の赤潮問題が起きたのですか。

藤井 そうです。77年に赤潮が発生して、それまで公害というのは企業が悪いからだと思っていたのですが、どうも私たち生活者も、琵琶湖を汚しているようだ。初めて加害者意識を持ちました。それで、何ができるかを考えて、まず暮らしのレベルから、せっけん運動ではないかと。



「行動力とパワーに脱帽します」森代表

森 あの運動は、本当に滋賀県民が一丸となって、大袈裟にはではなく、歴史が動きましたね。

藤井 今振り返っても、本当にすごいうねりだったと思います。やはり複数の要素がうまく絡みあってこそ、実現したんです。当時、私も痛感したのですが、住民がいくら考えても、それを政治の高みにまで押し上げる政策者がいないと駄目なんです。せっけん運動の政策者は、武村知事を筆頭とする滋賀県庁でした。武村知事が、地方自治を真に追求し、

住民運動にこそ地方自治の本義があるという考えの持ち主であったことが、一番の大きな要素だったと思います。メーカー側は、自由に販売してよいものにブレーキをかけるのは、憲法違反だと主張しました。それでも、武村さんは、最後は裁判になってもいいから、とおっしゃって、県民には見せない形で、メーカーとも闘われていたんです。そういう人が後ろに控えてくれていたこともあって、今でいう住民と行政の協働の見本も言えますね。

森 確かに、それは凄い覚悟だったでしょうね。

藤井 ええ。ですから、せっけんの使用率が50%を超えたら、メーカーとの裁判になつても、条例を施行すると。せっけん運動はその後、50%どころか60、70%の壁が見えてきて最終的には70、6%に到達しました。それで、「琵琶湖富栄養化防止条例」が、79年の県議会を通過して、翌80年に施行されたんです。

森 消費者の皆さんの、味方があればこそですね。我々のM・O・Hの運動も、ただの「もつたいない」運動とすれば、反体制、反官僚運動に陥ってしまいます。だからこそ、消費者一人ひとりの力をお貸しいただきたいと、強く思うのですが。

藤井 運動の性格を、反体制、反官僚としてしまつてはいけないのはありませんか。

森 しかし、M・O・Hの精神を、現実の暮らしに落とし込むと、どうしても反経済的な側面が出るを得ないと思うのです。それに対して、経済界は当然、NOと言うでしょう。経済界がNOと言えば、政治家の皆さんはたちまちお困りになると思うのですが。





住民が歴史を動かしたのですね

藤井 経済界は、その時の価値観で、それが未来にとって本当に良いことか否かはあまり深く考えず、経済成長率のためのプログラムを作っていきます。

本当はそこで、未来への方向付けをきちんと模索すれば、社会は変わっていくはず。私たちは、反官僚で動いたこととはないんです。何かを実現するため、私たちの示す価値観に対して、「そうだ」と言ってくれる官僚を味方につけ、さらに環境も経済も全体を見回してくれる人を、首長のような存在に置くこ

とが大切なのではないでしょうか。

森 全体を見回せる首長ですか。今後のM・O・Hの活動の中に、ぜひ取り込んでいきたい考えです。

環境を主軸とした小さな事業体、「環境生協」の設立

森 90年に設立された「環境生協」について伺いたいのですが。設立の経緯というのは。

藤井 77年の赤潮から83年のアオコの発生までの過程で、せっけん運動を経

てきましたが、琵琶湖の水質はあまり回復していないことがわかりました。

それで、もう一度、議論を立て直す必要の中で取り組んでいくのですが、議論を重ねるうち、社会問題の本質は、環境にせよ、福祉にせよ、官が作った制度や仕組みそのものに問題があるという結論に至って。それならば、住民がイニシアチブをとって、住民の発想で何ができるかを、協同組合の手法でやってみよう、と、「協同組合運動研究会」を作ったんです。環境プロジェクト、福祉プロジェクトと、それぞれの分野に分かれ、その中で私は主に環境プロジェクトに取り組み、それが環境生協の前身となりました。

森 生協は全国に幾つもあります。そういうケースは珍しいのでは？

藤井 非常に珍しいと思います。「環境」という分野だけを取り出して、小さな事業体を作ったということです。これは非常に怖くて、なかなか真似がしにくいだろうと思います。議論して考えられることと、本当に形を作るときに、事業として成り立つかどうかは、別物ですから。

森 本当に言われるとおりだと思います。

藤井 議論ばかりでは駄目だということで、とにかく色々な視点を持つ人たちにアプローチしました。専門的な知識は研究者に、琵琶湖のことは漁師さんに、琵琶湖の水源である森のことは、森林組合の方たちにと。そして、浄化槽にも取り組んでいきたいと考えていましたから、それはメーカーの方々にお願ひして、およそ通常の生協の組合員とは異なる方たちを集まっていたのだと思います。先にお話した細谷さんが、複眼思考を持ってトレーニンングすることが大事だということ、教えてくださったんです。

森 しばらくして藤井さんは、97年(11月)に環境省中央環境審議会の委員にもなられ、いよいよ全国区で活動され出したと、私も注目していたんです。

藤井 委員を何度もお断りしたんですよ。環境生協は一つしかありませんから、オンリーワンは目立つんです(笑)。それと、私たちの活動は、反対や追放と

いった否定一辺倒のスタイルとは違って、合成洗剤の替わりにせっけんを、下水道に対して合併処理浄化槽を、化石燃料に替わって自然もしくは再生可能なエネルギーをと、対案提案と実践をしてきたことが、具体的でわかりやすいということ注目されただけです。



森 ただ反対するだけでは、なかなか前に進みませんからね。しかし、国の審議会というと、本当に現場を知っている人たちが集まっているのだろうか、私は常に疑問に思うのですが。

藤井 そうですね。ですから、身にならないところで議論しても、そのうち

通いきれなくなるのではと思ったのですが、同じ年の12月に京都會議の開催がありましたから、お引き受けしたことは結果的に、とてもいいタイミングだったんです。

せっけんの原料、天ぷら油を 再生可能なエネルギーに

森 エネルギーについて、先ほどお話が出ましたが、その頃にはもう、天ぷら油(廃食用油)で車を走らせるという取り組みに着手しておられたのですか。

藤井 そうです。せっけん運動は、その使用率がピーク時の70・6%から、環境生協設立の90年には、30%程度にまで下がっておりまして。私たちはせっけんの原料にと天ぷら油を大量に回収していましたから、これをどうするかということになって。やめるのは簡単ですが、何とか発展的に前に進めたいという思いがありました。ちようどその頃、ドイツで菜種の取り組み(※3)があることを知り、これは凄いことをやっているなど。目から鱗が落

地域モデルの存在は大きい

ちたように、私たちも天ぷら油でやってみたらどうだろうということ、92年から、その実験を始めたんです。

森 廃食用油がせっけんからエネルギーの原料に……。幸か不幸かは、わからないものですね。

藤井 73年のオイルショック時、後に環境先進国と言われるデンマークやスウェーデン、ドイツが何をやっていったかというところ、未来世代に向けて、化石燃料に替わるエネルギーを考えていたわけです。日本ではトイレットペーパーや砂糖の買い占めに慌てふためいてましたね。政治家によって、国が辿る方向は、こうも違うのかと驚くとともに、この国は、未来に対する約束ができていないと、本当に痛感しました。

森 天ぷら油でもエネルギーになるんだというお話を、審議会でもされたのでしょ。反応はいかがでしたか？

藤井 ゴミである廃食用油でも、化石燃料に替わって、バイオ・ディーゼルにしてCO₂の削減に貢献できるとお話し

ても、何を戯言たわ言を言っているのかと、誰も話を聞かない状況でした。でも、これは未来に向けた大事な取り組みであり、絶対にいけるという自信がありました。

森 当時はまだ、バイオマス・エネルギー（※4）という言葉もなかったと思うのですが、今になって振り返ると、経済



複眼思考で国を変える

界も政界も、藤井さんの後を追う形になつてきましたね。藤井さんの強みは、発言に対して、現実^{リアリティ}に愛東（東近江市）という地域モデルを作りながらのものだ、という点があると思うのですが。

藤井 国を変えるには、小さくてもいから地域モデルを作って、未来に向

けて実現が可能であることを示していくことが必要だと思えます。

地域の原風景、 菜種の栽培をもう一度

森 愛東は素晴らしい地域モデルですが、そこに至るまでは大変だったのでは？

藤井 天ぷら油で車が走るといふ、地域の未来イメージに対して、首長である町長も職員も、全員が「そうだ（YES）」と思わなければいけません。そして、町の人が「この人は何を言っているのか？」ではいけませんから、プロジェクトの開始まで、地域の方のお話を聞くことに徹しました。その中で、昔は滋賀県中に菜種が作付してあって、本当に素晴らしい景色だったということをお聞きしたんです。それで、逆にイメージが描けたというか。レンゲの赤と、麦の緑、菜種の黄色で春を迎えるような、そういう世界を子どもたちにバトンタッチできればと考えてたんです。

森 私の子ども時代にも、菜種を刈って、棒で菜種を叩いて実を落とした経験があります。最終的には油屋さんに持って行って、一年分の油と交換してもらおうですよ。

藤井 その光景があったのならば、持続可能なエネルギーを考える際、何も突拍子のないことをやる必要はないんです。ですから地域の原風景であった菜種を、もう一度栽培しませんかと提案したところ、反応は大きく二つに分かれました。一つは、またあの大変な作業をやれというのか、もう一つは、確かにあの風景を取り戻したいね、というものです。それで、昔の作業を復活させるのではなく、直撒きでコンバインで刈り取って、機械の力を借りるんですと伝えました。

森 しかしコンバインだと、刈り取る際に、菜種の実がバラバラとこぼれてしまうんじゃないですか？

藤井 いえいえ、そこから実験を何度も繰り返しました。

経過としては、98年に30アールの作付面積で、菜種の栽培が始まりました。初めから大きくするのではなく、小さ

くてもきっちり実現させることを、町の人たちと一緒にトレーニングしよう。そして99年に、「湖国菜の花エコプロジェクト」として、滋賀県環境部

局、農政部局、産業部局、教育委員会からなる横断型のチームが作られました。そこから県内の5カ所です3年にわたって、延べ15カ所で、定植して手で刈り取る方法、直撒きでコンバインで刈り取る方法、他にもいろいろな条件を試した上で、結局、直撒きでコンバインで刈り取る方法であっても、収量はそれほど変わらないということがわかりました。品種についても、滋賀県では昔から、オウミナタネやムラサキナタネが作付されていたのですが、エルシン酸（※脂肪酸の一種）が高いということ、県の力と、東北農業試験場（※岩手県盛岡市。食用菜種の研究開発で知られる。01年に東北農業研究センターに改編）の力をお借りして、ナナシキブという品種が生まれ、いよいよ各地に広げていく準備ができたんです。

森 分野を横断してチームを組んだということが、まず画期的ですね。

藤井 そもそも地域というのは、決し

て縦型ではなく、横型なので。いろいろなものが横並びで一緒になってこそ、循環型社会も実現するのだと思います。

「農とエネルギーの地産地消」をめざして

森 確かにそうですね。藤井さんの目から見て、新エネルギーのシナリオは、どこまで進んだと思われれますか？

藤井 廃食用油は、結局はゴミです。ゴミが循環しているレベルで止まるとは駄目なんです。菜種の栽培は、転作等の農業政策で、荒廃しつつある農地を生かして行われますから、ゴミを循環させるレベルのことをやり続けると同時に、資源作物である菜種の栽培を手立てとして、この国の農業の現場にまで入り込んでいきたいと考えています。それで農業の振興につながれば、はじめて「循環型」と言えるのではないのでしょうか。

森 なるほど。新エネルギーの供給構造が、農業にもつながっていくと。

藤井 そのためには、環境省だけでなく、少なくとも農水省や経済産業省の



我らが希望を持ち未来の世代へつなぐ

力が絶対に必要です。この関係を早く作ってくださいと申し上げ続けてきたのですが、今、ようやくその形ができてきました。

「バイオマス・ニッポン総合戦略」が02年に閣議決定し、経済成長率のためではなく、持続可能な社会を作るために、これまで日本では見向きもしなかったバイオマスに目を向け、もっと先に行こうという姿勢が打ち出され、取り組みが進められています。

森 そのためにも、愛東という地域モデルが、先駆となつて「もっと先」へ行ってほしいで

すね。

藤井 日本は先進国の中でも、食べることの自立とエネルギーの自立が最も遅れています。愛東で、農とエネルギーの現場がどれだけ自立できるか。これは「農とエネルギーの地産地消」だと言っているのですが、バイオマスは小規模・自立(自律)・分散型の構造でなければなりませんから、地域の中で循環すべきであり、それには、地域にある中小企業の技術を利用すべきです。そのネットワークの中で、こういった新しい産業が生まれるか、こういったことを追求していきたいと考えています。

森 その「地産地消」の構図が、地球の未来に間に合つて欲しいですね。

藤井 自分のこれまでを振り返ると、大変なことは数多くありましたから、希望は失っていないんです。ここに希望を見出さないと、未来の世代に責任が持てませんから。

森 若い世代は、そろそろ気づきだしたんじゃないかという印象も受けます。だから私も、希望は失いませぬ。本日は長時間にわたつて、ありがとうございました。

【注釈】

(※1) せっけん運動……77年5月、琵琶湖に赤潮が大発生し、その原因となる窒素・リンの琵琶湖への流入を防ぐため、有リンの合成洗剤ではなく、せっけんを使うという運動が始まった。78年に「びわ湖を守る連絡会議」が発足し、80年には工場廃水の窒素・リンを規制し、家庭用の合成洗剤の使用禁止等を含んだ「琵琶湖富栄養化防止条例」が施行された。

(※2) 菜の花エコ・プロジェクト……98年に愛東町(現東近江市)で始まった、持続可

能なエネルギーを供給する試み。滋賀県では「せっけん運動」を経て、せっけんに替わる廃食用油の活用法として、滋賀県環境生協と愛東町が中心となり、廃食用油の燃料化(天ぷら油で車が走る)が94年から試験的にスタート。そこから更に、廃食用油のものである油(菜種油)をやることで、持続可能なエネルギーの供給、ひいては自立した地域循環型社会の構築に向けて、プロジェクトが進展。99年には、滋賀県の事業として「湖国菜の花エコプロジェクト」がスタートし、現在、同様の菜の花プロジェクトは、



手を携えて持続可能な日本をつくりましょう

日本全国150カ所に広がっている。

(※3) ドイツでは70年代に世界を襲ったオイルショック(石油危機)を教訓に、将来、資源の枯渇が予想される化石燃料の代替エネルギーとして、菜種油の燃料化計画が国策として、強力に進められている。

(※4) バイオマス・エネルギー……生ごみや木屑、家畜の排せつ物など、動植物から生まれた再生可能な有機性資源。

あやこ

●ふじい あやこ 神奈川県生まれ。菜の花プロジェクトネットワーク会長。上智大学文学部卒業。滋賀県環境生活協同組合理事長。環境省中央環境審議会委員。農林水産省「バイオマスマップ(総合戦略)」策定プロジェクト・アドバイザリーグループ委員。リサイクルせっけん協会会長。日本NPOセンター評議員。
著書／菜の花エコ革命(株)創森社

あきこ

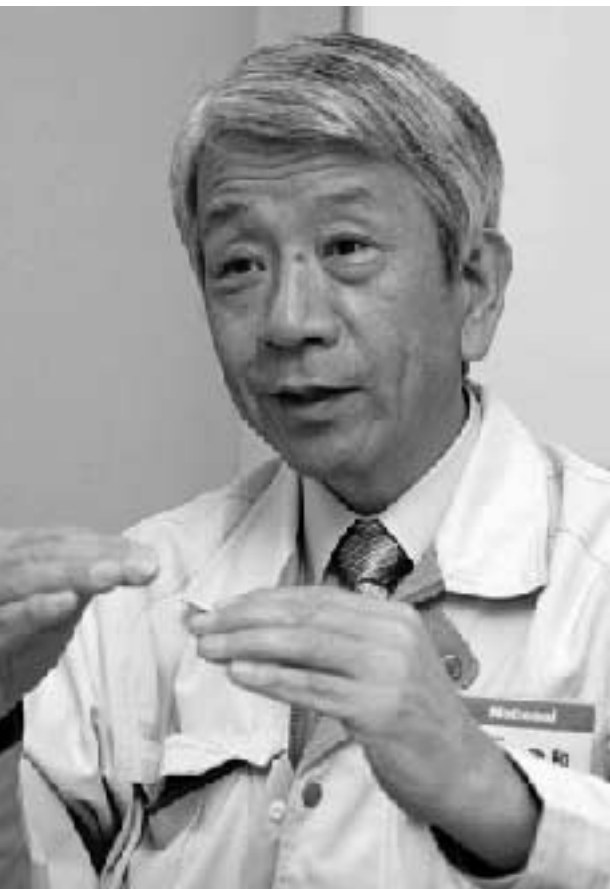
●もりけんじ 1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新九州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長など。著書／「吃音はなおる」遊タイム出版、「循環型社会入門」新風舎

「グリーン物流」最先端はBDF

社員食堂の廃天ぷら油を物流トラック燃料に再利用

—— 松下電器産業(株)草津事業所の取り組み ——

企業の活動が地球環境と共存するためには、環境保全と事業活動の両立が求められます。それに向け各企業で様々な手法がとられる中、松下電器産業株式会社草津事業所では、自社の社員食堂から出る廃食用油を精製して、自社製品を運ぶ物流トラックなどの燃料に再利用する取り組みが始まっています。



「できることを、できることから着実に」と石川さん

「地球環境との共存を めざして」

松下電器の事業ビジョン

事業ビジョンの一つに「地球環境との共存をめざして」を掲げる松下電器産業では、製口品を通じて「生活の質をより高く」するとともに、製品や生産現場の「環境への影響をより小さく」することで、持続可能な社会の実現に貢献することを基本的な考え方としている。そのために同社が設定した環境ビジョンの一つに、今回ご紹介する「販売・物流のグリーン化」が含まれている。

松下電器産業株式会社
松下ホームアプライアンス社
冷熱空調総務・環境グループ
環境チーム チームリーダー
石川 政和

物流のグリーン化といえば、最近ではエコドライブやモーダルシフトといった言葉をよく耳にするが、同社ではこれらに加え、さらに物流トラック等へのバイオ燃料の導入が始まっている。バイオ燃料の導入推進に向けた動きは、国内でも活発化しているが、現実にはまだまだ「夜明け前」のイメージが強い。その中で、誰もが名前を知っている同社のような大手メーカーが、バイオ燃料導入の先鞭をつけた意義は、とても大きいのではないだろうか。

松下ホームアプライアンス社冷熱空



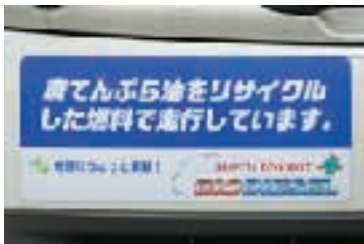
調事業環境チームの石川政和さんにお話を伺った。

「バイオ燃料によるグリーン物流は、一企業としての取り組みである以上に、その仕組みを地域や産業界の中に広げていこうというメッセージ色の濃い取り組みです。つまりそれが、循環型社会づくりへの向けた当社からのメッセージでもあると思います」

華々しく「バイオディーゼル燃料車」の出発式が執り行われた。



リフトもトラックもBDF



このステッカーが目印です。

回収、精製、販売。 既に確立されたサイクルを活用

バイオ燃料の導入が滋賀県内の事業所から始まったのは、なぜだろう。

「松下電器全体でバイオ燃料の導入を考えた場合、いきなりとはいきませんから、05年の9月から半年間かけて、調査事業に乗り出しました。当社は全国各地に事業所がありますが、バイオ燃料に関して、一番の素地があるのは滋賀県ではないかということ、この草津事業所に決定したのです」

同社の調査事業は、全国に先駆けてバイオディーゼル燃料を一般販売したことで知られる油藤商事株式会社（滋賀県豊郷町）、安土町を本拠とする菜の花プロジェクトネットワーク、滋賀県立天学、滋賀県庁などから有識者の協力を得てスタートした。一般家庭やレストラン等から廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料に精製して販売するサイクルは、県内の一部で既に確立されている。このサイクルをうまく活用することで、調査事業も比較的スムーズに進展した。

「社員食堂から出る廃食油は、それま



でも処理業者さんに産業廃棄物として処理を依頼し、そこから最終的には石けんや飼料等にリサイクルされています。しかし、出しっぱなしで後はお任せというシステムよりも、自分たちの地域で、自分たちの製品を運ぶトラックの燃料に活用していく方が、理想的ですよ」

草津事業所内にある社員食堂では、1日に約5000食が賄われ、天ぷらなどの残り油は、年間7000リットルにのぼる。その廃食油を、先の油藤商事が回収してバイオディーゼル燃料に精製し、



給油中。ドライバーにも好評。

スタンドで販売する。調査事業の開始から1カ月後には、物流トラックのトリアル運行が始まり、ドライバーの「これなら大丈夫」の報告を受けて、いよいよ06年の5月から実運用が開始した。

回収する利用する、 インとアウトの部分を広げる

実運用の開始とともに、プロジェクトは、「廃食油回収のネットワークの構

築」と、「バイオディーゼル燃料利用の促進」、この二つを深耕することで、さらに進展し出した。

「ネットワークの構築について、まずは滋賀県内の松下グループ各社に声をかけていきました。松下電工(株)彦根工場や同栗東工場、パナホーム(株)本社工場、松下冷機(株)など、全7事業所があります。県内の松下グループが集結して何かをやるというのは珍しいことだけに、同じテーマを共有する取り組みは意義があると、賛同をもらいました。また、会社の取り組みの輪に、社員の家族にも加わってもらおうと、家庭から出る廃食油をペットボトルに詰めて持参してもらい、毎月25日に回収することになったんです」

回収日の25日は給料日で、他に1日や月末に回収してはという声もあった中、あえて採用された。

「毎月の給与も銀行振り込みになつて、有り難味が薄れてきたと思われませんか？ それと同時に、働けることそのものへの感謝の念も薄れているように感じます。会社のある地域にも、感謝することを忘れてはいけません。」

ですから月に一度は、感謝の気持ちを新たに、何かいいことをしようよ、という呼びかけのもと始まりました」

こうして毎月25日には、廃食油の入ったペットボトルを片手に出社する社員の姿が見られるようになった。

「面倒くさいと思う社員もいるでしょうが、女性社員に聞くと、これまで天ぷら油の処理に困っていたという話をよく耳にします。中には処理が大変だから、うちの天ぷらはできる限り微量の油で、なんていう社員もいました。これを聞いた社員食堂の調理師さんが、それはただの熱処理で、天ぷらじゃない、と大笑いされていました」

燃料利用の促進については、車両30台の実運行を目標に、草津事業所と取り引きのある全物流車両にバイオディーゼル燃料の利用を働きかけた。その結果、部品を納入する調達物流、工場間の輸送を担う生産物流、製品出荷の際の販売



発想がナチュラルで具体的

物流、廃棄物を運搬する静脈物流など、全ての物流部門でB20（バイオディーゼル燃料混合率20%）を燃料とする車両が走り出した。

「松下が言うから、という面もあるかもしれませんが、これまでに本業である物づくりを通して培ってきた人間同士のつきあいが根底にあったからこそ、実現

できたんだと思います」

06年9月現在、合計で21社、トラックを中心に28台の車両がバイオディーゼル燃料で運行中だ。車両には写真のようにステッカーが貼り付けられる。給油は豊郷町にある油藤商事のGSと、大津市瀬田にある江洲石油のGSの2カ所で行い、燃料の単価は一般のスタンドで販売されている軽油単価と同等に設定されている。

「目新しい取り組みですから、各社とも古いトラックでこの燃料を試してみようというケースが多かったです。古いトラックだと、排ガスも真っ黒というイメージがありますが、バイオ

ディーゼル燃料ならそういうこともありません。また、滋賀県外の会社ですと、燃料代が地元よりも安くつくと言っていたらいるケースもあります」

産・官・学・民連携で、 バイオマススタウンづくりも 視野に入れながら

プロジェクトが軌道に乗り、石川さんらは、この取り組みを、さらに拡大の方向へ向かわせた。

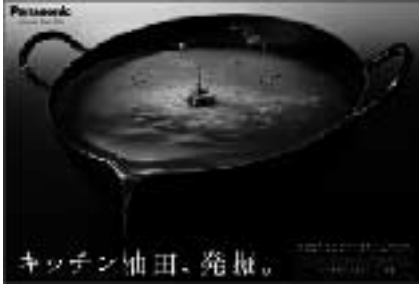
「近隣の大学や自治会、さらに環境団体や工業会、商工会議所などのお付き合いを通じて、県内事業者にも取り組みを紹介し、賛同を呼びかけています」その成果として、廃食油の回収ネットワークにオムロン(株)やダイフク(株)、石田食品(株)など県内の数社が新たに加わり、現在18事業所がネットワークに登録している。これにより、年間で3万2300リットルの廃食油の回収（06年9月現在）が可能になった。それぞれの事業所で集められた廃食油は、油藤商事により1円/kgの有価物として毎月25日に定期回収される。

06年9月度の状況は、廃食油の回収

量は約1100リットルで、バイオディーゼル燃料の利用量も約1000リットル(※B20の混合率は20%なので、実際に利用する軽油の量は約5000リットルにのぼる)と、ほぼインとアウトのバランスがとれた状態だ。このまま順調にいけば、近いうちに回収量、利用量とも1700リットル程度にまで達する見込みだという。

また、草津事業所近くの町内会や立命館大学との協働も、実現を間近に控えている。将来的には、集まった廃食用油を精製したバイオ燃料で、この地域を運行する路線バスを走らせるなど、バイオマスタウンづくりに向けた取り組みも検討中だ。

「地域社会の一員として思うのは、我々の取り組みを行政に利用してもらい、バイオマスエネルギーの地産地消、ひいてはバイオマスタウン構築へのステップにしてほしいですね。その際に、松下電器



キッチン油田。菟坂。

バイオ燃料によるグリーン物流をテーマにした松下電器の企業広告は、日刊工業新聞社主催の日本産業広告賞でグランプリを受賞した

され、松下電器は晴れて大臣賞を受賞した。ちなみに審査の内容は、バイオマスの利活用方法として、地域性、継続性、地域貢献性、先進性・モデル性の4点を勘案したものだ。最後に、バイオディーゼル燃料の導入と、企業間のネットワークづくりが、これほどス

の名前が表に出るとか出ないは、どうでもいいことだと思っています。また、松下電器の一員として思うのは、この草津事業所を舞台とした滋賀モデルが全国の松下グループに広がって欲しいということですよ。現在、大阪、京都、和歌山、兵庫の松下電器の事業所が、準備段階にあるんですよ」

一連したプロジェクトは、06年12月、農林水産省が主催する「バイオマス利活用優良表彰」において、同社の製品であるバイオマスプラスチック(※とうもろこしを原料とする)をパッケージに採用したオキシライド乾電池とともに評価

ピーディに進展した要因を聞いてみた。「いいなあと思ったなら、すぐにやる。これに尽きますね。すべてが整った時点でなんてことを言っていたら、時代は変わってしまうんです。目的と手段は違います。手段を考えるのに凝り固まると、いつの間にか目的と手段が一緒になっていったということがないか、見直すことも大切なのではないでしょうか」今後のグリーン物流を支える一翼として、更に次世代の新しいエネルギー源として、バイオ燃料に大きな期待がかかっている。

石川政和

●いしかわ まさかず 鹿兒島県生まれ。松下電器産業(株)エレクトロニクス事業部門にて生産管理、経営企画、環境を担当。滋賀県環境保全協会理事、滋賀経済産業協会環境委員会副会長、草津市環境審議会委員など。著書/すぐに使える中小企業の環境—S—
○実例集

●松下電器産業株式会社 草津事業所Ⅱ所在地/草津市野路東2丁目3番11号 〒525-0852 0

「CSR」から生まれる新しい信頼

— 社会に広がる危機感の中で、企業は何ができるのか？

環境問題をはじめ、教育や食の安全など、社会問題に危機感を強める企業が増えていきます。企業経営の上で、CSR（企業の社会的責任）の重要性が問われる今、今年2月に「第一回滋賀CSR経営大賞」を受賞した株式会社たねや（本社・近江八幡市）の取り組みに注目し、同賞受賞の理由にも挙げられた、同社の「農場や企業内保育園の開設」について詳しくご紹介します。



株式会社たねや農場

■東近江市山上町
（旧永源寺町山上）

徳田さん

はじめは、ヨモギから

たねや農場は、旧永源寺町の二つの集落（山上、上二俣）にかけて広がる。眼前には鈴鹿山脈が連なり、すぐそばを愛知川の清流が流れるのどかな一帯だ。

1998年、たねやは自社の農業生産部門として、「有限会社たねや永源寺農園」をこの地に設立した。生産するのは、菓子の原料となるヨモギ。その作付を手伝った地元農家の人たちも、「土手に生えている雑草をわざわざ」と、首をかしげた。

その当時、国内で食用に使われるヨモギは、そのほとんどを中国からの輸入品でまかなっている。しかし、たねやの

■株式会社たねや／
株式会社たねや農場

■2006年9月11日

山本徳次社長は、輸入したヨモギの乾燥葉を洗浄した後の水が、真っ白に濁っているのを眼にして、ただちに自社内での無農薬栽培による生産に切り替え、安全性の確保を決意したのだという。

現在は、株式会社たねや農場と改組改称された同農場を、構想段階から手がけてきた川島民親さん（同社社長）は、当時をこう振り返る。

「今でも野菜なのか雑草なのか判断が分かれずものね。たねやさんは、雑草を育てて遊んではると笑われましたよ。でもね、私たち自身も、遊び心と言うとふざけるように思われるかもしれませんが、即、結果を求めるよ



黒豆が見事に成長。左から、川島氏、田中さん、

うなギリギリのところであるんじゃないかと、ゆとりを持ってやろうと…。お天道様や土を相手にするのが、農業の本質でしょ。製造業や販売業と同じ調子でとは、いきませんよね」

ヨモギに次いで、 黒豆の栽培にチャレンジ

ヨモギに次いで、黒豆の栽培も始まった。山本社長が、「禪宗のお寺がある土地では、古くから芋類や豆類の栽培が伝えられている」と言うように、旧永源寺町のあたりでは昔から黒豆の栽培が盛んであった。町名の由来ともなった永源寺（※滋賀県唯一の禪宗本山）

1361年に開山された）では、黒豆は「坐禅豆」の名で呼ばれ、永い歴史の中で、精進食に欠くことのできない食材の一つとして重宝されてきた。また、鈴鹿山脈を間近に控えた地形は寒暖の差をもたらし、黒豆の栽培に最も適した気候だとされる。

黒豆には幾つかの品種があるが、農場では、その中でも極上とされる丹波黒を栽培している。種蒔きから刈り入れまで、手作業によるデリケートな作業が要求され、川島さん自らも農作業に加わって、それを実感したそう。

「他の黒豆と比べると、コストが3倍かかります。一本ずつ芽をピンチして、芯を止めないといけないし、害虫駆除を徹底しないとダメなんです。とにかく手間がかかるんです。夏場の草取りは過酷でした。手伝いに来てもらっている近所の主婦の皆さんが、倒れないかと心配しました（笑）」

努力に対する評価が 価格に反映する

コストは価格に跳ね返るが、川島さんは当然のことだと言う。

「安かろう旨かろうというの、な
いと思うんですね。そのことを食の仕
事に携わる我々が、まず理解しないと。
きちんとした食べ物を作るには、その
労力に対する評価が、きちんとなされ
ていないとおかしいでしょ。だから、
もし社内からコストがかかりすぎだ
と、そういう声が上がったら、私はこ
の挑戦は失敗だったと、そういう覚悟
でいるんです(笑)」。笑いごとのよう
ですが、私にとってこれは、意味の深
いことなんです」

取材したのは初秋。黒豆は、11月末
から12月にかけて収穫される。収穫に
先立って、11月に入ると葉を落とす作
業が待っている。黒豆の田は、併せて
3町。手作業で1枚残さず葉を掻き落
とし、豆の鞘だけを残す。今年は3、
4トンの収穫が見込まれている。

●ヨモギと野菜などの畑

ヨモギ46アールのほか、ハーブ、野
菜類が栽培されている。野菜は、主
にたねや手がける東京・青山のイタリ
ア料理店「ソルレヴァンテ」(2005

年11月オープン)の食材に用いられる。

農場のスタッフ、田中さんにお話を
聞いたところ、「ヨモギはもともと雑草
ですから繁殖力も強くて、5月から10
月にかけて、年5、6回は収穫できるん
です。今年は4トンぐらいですね。た
ねやで使用する以上の量ですから、余
った分は別のお菓子屋さんにお分けし
ています。ヤギですか? ヨモギ以外の
雑草を食べてくれる大事な労働力なん
ですよ。近所の小学生から、いつの間
にかヨモギと名づけられました(笑)」



大活躍のよもぎ君

●赤米と黒米の田んぼ

赤米と黒米は1反ずつ栽培されてい
る。赤米は迎春用の縁起もののお菓子
などに使われる。黒米は、現在、商品開
発部門で利用法を検討中。赤米は成長
過程で、稲穂の色がピンクから赤、紫へ
と変化する。赤米の田んぼだけが、周り

から美しく浮かび上がっていた。



鮮やかな色に染まり、風景に溶け込む

●黒豆の田んぼ

地元の農家の協力を得て、各農家が所
有する田んぼに分かれて栽培されてい
る。農場のスタッフ、徳田さんは地元
生まれ、農業に携わること数十年の最
も頼れるスタッフ。黒豆について、「節
が5節か6節まで伸びたら、芯をとめて
やるんです」と丁寧に教えてくれた。



まだまだ成長しす



おにぎり保育園

■愛知県郡安荘町長野415
(たねやグループ本部内)

**0歳から4歳児まで、
34名の園児たち**

たねや愛知川工場の敷地内に設けられた瀟洒なデザインの建物で、企業内「おにぎり保育園」だ。木造平屋建て。建物の中央に大きな吹き抜けがある。中に入ると、吹き抜け部分は遊戯室になっていて、太い木の柱が、四角錐の骨組み状に上に向かって伸びている。

園長を務めるのは池本加奈さん。子どもたちにはあえて「先生」と呼ばせず、「カナさん」と呼ばれている。

「男性の保育士もいて、私たちは彼のことをダイちゃんと呼んでいるんですが、いつの間にか子どもたちも、気軽にダイちゃんと呼ぶようになってしまった（笑）」

おにぎり保育園では、入園時に担当の保育士を決め、卒園まで持ち上がり式のシステムだ。現在、0から4歳児ま

で34名の園児がいるが、0歳と1歳児が全体の三分の二を超える。

「女性の子育てに関する意識が、いかに変化してきたかがわかりますよね。昔は子どもが小学校、中学校にあがったら働きに出る母親が多かったと思いますが、今は0歳、1歳児の母親でも、『もう自分の時間が欲しい』と言われるすからね」

園の保育目標 「家庭教育力」とは？

園の名前どおり、3時のおやつには、おにぎりがよく登場する。お昼も、ご飯にお味噌汁、野菜の煮物、焼き魚、煮魚など、基本的に和食が中心だ。

「最初はお弁当を持たせてもらってたんです。でも、子どもたちがお弁当箱のフタを開けたら、レンジでチンする音が聞こえてくるような、レトルトのお惣菜が目立ってたんですね。これに危機感を感じた私に、社長が給食にしたら…と、以前、たねやの日傘禮の舎で料理長を務めていたスタッフを紹介くださったり、今日のような給食制度に切り替わりました」

元気いっぱい、池本園長



お昼寝タイム。木の質感が温かみを増す。安心してスヤスヤ・・・

旬の野菜や魚を、丁寧にとったダシを使って調理した給食は、当初、園児の食べ残しが目立ったのだとか。

「食べられない味だったんでしょね。カレーやハンバーグに変えてはどうかという保育士の意見もあったんですが、私は園の給食が食育につながってほし

かった。だから、お昼の一回ぐらいお腹いっぱい食べられなくても大丈夫！と、そのまま続けたんです（笑）」

子どもたちは、園の味に少しずつ慣れ、今では家でもおにぎりや炒り子のおやつをリクエストするのだとか。

「この保育園は行事も少ないですし、

何か特別に楽器を教えるわけでもない。目玉がないんです。ただ、食事や排せつ、毎日の生活のリズムをきちんと整えていってほしいんです」

園の保育目標に掲げられた、「家庭教育力」という言葉がある。

「おこがましいかもしれませんが、子どもたちが園で学んだことを、それぞれ自分の家庭に持ち帰って、子どもに影響されて、お父さんやお母さんも、暮らし方を見つめなおしてもらえるような、そういう効果を期待しています」

まわりの大人たちの協力を得て

子どもたちが学ぶのは、規則正しい生活だけではない。園では昨春から菜園作りにも力を入れた。プランターで種から育てたミニトマトが、この夏に園児たちが食べきれないほど実った。たねやの契約農家のご主人が、ほぼ毎日指導に通ってくれたのだそう。

「こっちのトマトさんを大きくするために、こっちのトマトさんは、さよならしなくちゃいけないんだよって、間引くことを教えたり、子どもたちに命の大切さを伝えていきたいですね」

前述の農家のご主人をはじめ、子どもたちのためならと、協力を惜しまない頼もしい面々が揃ってくれている。園児サイズの小さな机と椅子も、地元の大工さんが手作りしてくれた。

「ドイツまで勉強に行かれた非常に熱心な大工さんで、使う木材の材質によつて、温もりが違ってくるんだよと教えていただきました」

他にも、たねやが所有する愛四季苑^{はしきえん}で、山野草を育てる「美土里^{みど}の会」会員の人生経験豊かな皆さんが、定期的に園を訪れてくれる。

「家族の中にお年寄りがおられない園児も多いですから、もう自分のおじいちゃん、おばあちゃん感覚で、心待ちにしています。やっぱり園児たちも落ち着くんでしょね。それに昔の遊びを沢山教えてもらえますから」

働く男性に、子育てへの理解を

企業内保育園については、反対意見を唱える幼児教育の専門家も多い。企業内保育園に子どもを預ける従業員には、企業側も残業を頼みやすいのではないか、子どもまでが残業の対象にさ

れているのでは、と指摘する声もある。

「そういう面もあるのかもしれない。でも、このおにぎり保育園は、残業に貢献する施設でもないし、企業の社会的イメージに貢献するためのものではないんです」

急に熱を出したり、具合の悪そうな園児がいれば、池本さんは、工場で働く母親の上司に、まず連絡をする。早退をしやすい状況を作ること、そして上司である男性に、子育てがいかに大変であるかを知ってもらおう、池本さんからの間接的なメッセージだ。

「理想は、この工場にお父さんが勤めているという子どもたちにも、園を利用してほしいですね。まずお父さんが子育てを担って、そしてまわりの人や地域が支えてくれてこそ、安心して子どもが産める環境と言えるのではないのでしょうか。それに、お父さんが出世して役職に就かれた時、部下の女性社員を思いやる気持ち自然と芽生えると思うんです」池本さんは、そういう職場内の風土が、企業の資質にもつながるのではないかと語ってくれた。

INTERVIEW

インタビュー

株式会社たねや社長
たねやグループCEO
山本 徳次

■近江八幡日牟禮ヴィレッジ
たねや「日牟禮の舎」

■聞き手/M・O・H通信編集長

——農場や保育園など、業務の本筋とは異なる分野に、力を入れておられるのはなぜでしょうか？

社会問題に対して挑戦してやろうと、か、そういう気負いがあったことではありません。もつと肩の力を抜いた発想で、たねやには、お客様に美味しさはもちろんのこと、食の安全と安心をお伝えしていく義務があります。また、従業員を確保するためには、従業員の皆さんが働きやすい環境づくりをフォローするのは当然のこと。その中でも、特に小さなお子さんについては、企業側もその成長過程に責任を持つべきという、ごく自然の道理に沿ったものです。



「圃の美を生むマイスター育成を」と
山本社長

——自然の道理に沿った取り組みが、CSR（企業の社会的責任）として、高い評価を受けていますね。平成18年2月に「滋賀CSR経営大賞」の第一回大賞を受賞された感想は？

農場は今からほぼ十年前にスタートしており、きっかけとなったヨモギについて、作り手がわかり、信頼できるものを求めるには、自分たちで作るしかないという状況がありました。私たちにとっては自然の成り行きであっても、社会の変化の中で、食のトレーサビリティ（※）に合致するということが、評価されたのだと思います。

保育園についても、職場と同じ敷地内に安心して子どもを預けられる施設があれば、従業員の皆さんは働きやす

いはずで。結局、どちらも根本にあるのは、良い品をお客様にお届けしたいという思いで、その思いに対する企業としての覚悟が、副次的な農場や保育園の努力に対する覚悟につながっているのです。このことが、現在の社会で、「CSR」という言葉に象徴されるようになったのだと思いますが、大変名誉なことだと受け止めております。

しかしながら、農場、保育園とも、一方通行的な「貢献」だけではないのです。農業への挑戦は、農業施策や農協との兼ね合いもあって、なかなか採算をあわせるのは難しいのですが、たねやが一つの物差しを作ることで、今後、地元の農業振興や環境問題につながる可能性があります。また、保育園も次世代の育成として考えれば、いくつか必ず実るものがあるはずで。

※食のトレーサビリティ……その食品がいつどこで誰によって生産され、どのような農薬や肥料、もしくは飼料が使われ、どのような流通経路をたどって、消費者の手に届けられたかといった生産履歴の情報確認。

——毎月一度は必ず保育園をのぞかれるそうですね。次世代の育成という面からも、園に期待されることはありますか？

強く思うのは、保育園の環境が、家庭の延長線上であってほしいということです。特に、食事や躰、お年寄りとのふれあいなど、それらすべてが自然な形で子どもたちを包み、良い影響を与えていつてほしいと願っています。

人の一生の中で、一番大切なのは、人に対する儀礼をまつとうすることだと思います。それを教える時間が子どもに必要であり、そのためには、お年寄りの身近な存在が大きく影響を及ぼすと思います。我々の世代が子どもの頃、近所のお年寄りはとても怖かったものです。怖いだけでも、一方では竹馬やコマまわしの遊びを教えてくれて、虫や草花についても詳しい知恵袋的な存在でもありました。だから自ずと敬意が芽生えた。そういう昔の良いところを、美土里の会をはじめ、皆さんの力をお借りしながら、取り入れていつてほしいと思います。

——園にも保育園にも、非常に熱心

な人材がおられます。そうした人材を育てるコツは？

トップが使命感に燃えていれば、その情熱は以心伝心で、社員の一人ひとりに飛び火するものだと思います。トップの姿勢に大切なことは、絶えず前向きであることでしよう。前向きである限り、賭けに出ることもできるし、たとえ大きな壁にぶつかっても、必ず乗り越えられるものです。なぜこれをやるのかと、常に自身に問いただしながら、前だけを見ること。後ろを振り返ったら、よくあんな無茶ができたものだと、私でも恐ろしくて何もできなくなると思います。

私たちは、お客様があつてこそ、と同時に、支えてくれる社員があつてこそ、持続が可能なのです。店舗がいくらか成長しようと、人材が育たなければ、同じ商品・サービスを継続してご提供することができない。組織作りも、社会や環境と同様に、循環型でなければいけないのです。そのために私たちは今後、マイスターと呼ばれるにふさわしいお菓子職人の育成にも力を注いでいきたいと考えています。

最後に、たねやが現在のような全

国区での人気を得た理由は何だったと思われませんか？

一つは「商品力」です。和菓子の頂点は京菓子であり、これは今後も不動の存在でしょう。だからこそ、それを模倣していたのはいけません。1200余年の伝統に培われた「雅」に対して、たねやが極めるのは「鄙びの美」です。田舎の鄙びた美を、近江の地で探っていくとともに、素材については徹底してこだわりの、林檎なら青森の紅玉、さつま芋なら徳島の鳴門金時と、本当に食べて美味しいのはどれかと、源流をたどるよう突き詰めていったことが、商品力につながっています。もう一つは、「ブランド力」の構築です。戦略的には東京進出が大きなキートとなりましたが、その際に東京でも一番の老舗のそばに本店し、ポトムアップでなく、トップダウンで攻めていったことが、たねやの名前を覚えていただくのに一番の効果があつたのではないのでしょうか。

最後に大切なことは、この商品は自分の会社が世に送り出したのだと、社員全員が「誇りと自信」を持てるものを作っているかどうかです。あそここの真

似でしよと言われたら、モチベーションは下がります。ですから私は、コピーは絶対に嫌なんです。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

山本徳次

●やまもと とくじ 1940年滋賀県近江八幡市生まれ。たねやグループCEO。第一回デザインエッセレント・カンパニー賞、第一回滋賀CSR経営大賞、第5回渋沢栄一賞など数多くの賞を受賞。

●株式会社たねや 本社／滋賀県近江八幡市宮内町3。

1872年(明治5年)、近江八幡市池田町(旧八幡町池田町)に創業された菓子舗「種屋末廣」を前身とし、和菓子の製造販売とともに、1950年代初頭から当時、近江八幡で医療、教育など多岐にわたる事業活動が続いていたW・M・ウオーリスの教えを受け、洋菓子の製造販売を開始。1972年に株式会社たねやを設立。1995年には、洋菓子部門を独立させ、株式会社クラブハリ工を設立。1984年に滋賀県外のデパート出店第1号となる日本橋三越店を開店。以降、神戸、横浜、大阪、名古屋と主要都市の有名デパートへの進出を続け、全国的な人気を誇っている。

<http://www.taneyajp/>

我が家は銭湯、四代目！

——家族で支える、町のユートピア——

最近では、公共のマナーを学ぶため、銭湯が子どもたちの総合学習の場として注目されているのだとか。しかし、銭湯はやはり庶民にとつての憩いの場。ただ、残念ながらその数は全国で右肩下がりの状態にあります。今回は京都市北区の銭湯「加茂湯」を訪れ、銭湯を営む家族の形、そして営業風景あれこれをお届けします。

番台の「若嫁さん」は、
お客様とも顔なじみ

京都市北区、洛北と呼ばれる地域で、四代に渡って営まれてきた銭湯「加茂湯」。表通りの喧騒から、路地を曲がった住宅街に位置し、近所には幼稚園や、長い年月を感じさせる医院の建物など、町の生活の匂いが漂っている。

店先に並んだ数台の自転車を横目に、「ゆ」の文字が染め抜かれた藍の暖簾をくぐると、木札の鍵がついた下駄箱。カラカラとガラス扉を開けると、番台にはこちらが意外と感じるほど、若い女性の姿があった。彼女は、加茂湯に嫁いで4年になる松岡雅子さん(26)。

お客様には、「加茂湯の若嫁さん」として、もうすっかり馴染みの存在だ。取材した日は冬至とあつて、営業開始時間の午後2時から、お客様が後を絶たない。冬至はゆず湯。忙しい合間を縫つて、雅子さんに話を聞いてみた。銭湯を営む家に嫁いだ感想は、正直どうなのだろう？

「私自身、子どもの頃に銭湯に行った記憶はないんです。だから、あまり深く考えずに嫁ぎました(笑)。家業を手伝うようになって、銭湯ってやるのが沢山あるんだとか、最近は、お客様と親しくなるにつれ、これまでとは、加茂湯を営む松岡家の家族構成は、雅子さんの夫・孝哲さんと二人の子ど



ご協力ありがとうございました。ホカホカでした。

京都市北区小山西元町45
加茂湯
松岡 雅子



「体の芯からぬくもります」と、雅子さん。

も・楓斗くん(3歳)、希宏ちゃん(1歳)、そして義父・俊二さんと義母・紀子さん、義妹・佐和さんの総勢7人家族だ。孝哲さんの曾祖父に当たる加茂湯の初代は、もともと石川県に生まれ、京都に移り住んでこの場所で銭湯を開業し、以来、四代に渡って、銭湯を受け継いできた。

「加茂湯の歴史も、仕事の合間に義父がポツリポツリと教えてくれるんです。子どもたちが保育園から帰ってくると、番台のまわりを遊び場にして、お客様に可愛がって貰ったりしていますから、夫もそうやって育ったのかな、って思いますね」

生活時間帯のズレは、銭湯ならではのひと時でカバー

加茂湯は、午後2時から翌午前3時まで営業時間を延長した。深夜3時までの営業は、北区内に25軒(※京都府公衆浴場業生活衛生同業組合加入の組合員数による)ある銭湯の中でも珍しい。しかし、こうした営業努力が、若いお客様層の獲得につながっている。

「早い時間帯は、ご近所の年配の方たちが多くいます。夜になると、仕事を終えた40代、50代のお客様が増えますね。車で来られる方も多いですよ」

ちなみに入浴料は、大人(中学生以上)390円、中人(小学生)150円、小人(乳幼児)60円と、各都道府県ごとに統一されている。

ボーラーを焚くのは、孝哲さんと俊二さん、男性陣の仕事で、女性陣は主に番台を受け持つ。それでも長時間の営業体制ゆえ、夜はアルバイトの人たちに番台を預けるそうだ。



「営業時間が終わってから、夫と義父が浴場を掃除します。少なくとも1時間はかかりますから、二人とも布団に入るのは、ほぼ明け方です」
生活の時間帯のズレは、雅子さんにとっても、少し気掛かりな点だ。休日
は平均して月に2日。孝哲さんが二人の子どもと遊べるのは、子どもが保育園から帰った後、孝哲さんがボイラーを任されるまでの、短い時間に限られている。しかし、銭湯をやっているからこそ、とっておきの時間が、それを

カバーしてくれる。

「営業時間外に、自分たち家族だけで大きな湯船に入る時間が、一番幸せですね。実家のお風呂では、物足りないと感じるようになりました」

加茂湯の魅力は「やらかい 雰囲気」と松岡家の「人柄」

加茂湯のお風呂は、スチームサウナ・薬湯・気泡・電気・ジェット・水風呂と、ほぼ他の銭湯と比べ、大差はない。

ああ、ええ湯やったあ〜」「よかったわあ」

しかし、遠方から通い続ける加茂湯ファンは少なくない。加茂湯の特長を雅子さんに聞いてみたところ、水風呂から出るクラッシュ状の水が、他の銭湯ではあまり見かけない装置なのとか。しかし、湯上りのお客様数人と同じ質問をしてみたところ、「やらかい雰囲気」「ご主人と奥さん(俊二さんと紀子さん)の人柄」との答えが返ってきた。ちなみに雅子さんには、「親切やね」との評が。しばし、番台の雅子さんを眺めていると、男湯と女湯、両の脱衣所から、「ビールちょうだい」、「(貸し)タオル、ここに置くわよ」と声が掛かる。番台に置かれた血圧測定器で、湯上りの男性が血圧をチェック。表示された値を、番台で管理しているお客様個人専用の健康管理カードに記入するのも、雅子さんの仕事だ。「順調ですね」、「寒くなってきたから注意せえへんと」。何気ないコミュニケーションも、板についた様子だ。番台の中をのぞくと、何枚もの健康管理カードが綴じられていた。血圧や体重を記録してある。お客さまにとって、銭湯に通うこと自体が、健康のパロメーターになっている。



血圧チェックで健康に

「高齢のお客様は、雨が降ったら外出するのがつらいとか、しばらく姿を見ないと思ったら入院しておられたとか、いろいろな事情があります。そういうことをなるべく知った上で、こちらも接していきたいな、と思うんです」

**お客様と、いいお付き合いを
重ねていくことが一番大切**

湯舟の写真は、加茂湯をご利用のお客様に、突然、モデル役をお願いして

ご協力いただいた。少々逃げ腰の編集部に対して、堂の入った様子で、撮影の許可を貰ってくれた雅子さんの姿は、頼もしくさえある。

「最初は恥ずかしかったり、抵抗も感じました。でも今は、自分で考えて、あれこれと工夫できる点が気に入っています。清潔であるとか、備品がきちんと揃っているとか、やるべきことはきちんとやる。これは最低限、守るべきことです。その上で、お客様と関わりながら、いいお付き合いを重ねてい

くことが、一番大切だと思っています。ケーキ屋さんでも、あそこのケーキはおいしいよって、口コミで人気が広がっていきますよね。加茂湯も、そんな風にお客様から言ってもらえる銭湯でありたいんです」

見知らぬ同士、時には外国人のお客様も混ざって、湯船で話の花を咲かせる一時。加茂湯は町の小さなユートピアになる。

松岡雅子

●まつおか まつこ 1980年2月4日生まれ。2002年11月24日結婚。現在子ども2人。

●加茂湯II所在地／京都府京都市北区小山西元町45 〒6003-8113
営業時間／午後2時～翌午前3時
TEL.075-492-1456-1

●京都府公衆浴場業生活衛生同業組合
公式HP

<http://www.kyoto1010.or.jp/>

〈商家の家訓の話 第一回〉 CRSと三方よし

末永 國紀



イラスト：大橋 誠

【利益を生む 社会的責任】

二〇〇三年に社団法人経
済同友会は、「「市場の進
化」と社会的責任経営―企
業の信頼構築と持続的価値
創造に向けて」と題する企
業白書を刊行した。この企
業白書は、新しい意味での
企業の社会的責任をCSR
(Corporate Social
Responsibility)とあ
えて横文字で表現している。
以後、にわかに書店にはC
SR関係の書籍が並び、企
業はCSR室を設けるな
ど、CSRという言葉が氾
濫するようになった。

CSRが台頭してきた背
景には、もはや放置できな
くなった地球環境の異変と
内外で顕発する企業の不祥

事がある。これらの危機的状況に対応する方策としてCSR経営ということが企業の側から提言されるようになったのである。

それでは、旧来の企業の社会的責任と現在のCSRの違いは何か。

これまで言われてきたような企業の社会的責任の本身は、経済的価値の優先実現、コストとしての社会貢献、義務的取り組みとしての法令順守であった。これに対して新しいCSRの考え方は、社会的価値と経済的価値の実現は一体のもので、CSRに取り組むことは利益を生む投資であると考えるべきであり、義務としての法令順守を超えた自主的な取り組みであると主張する。

現在のCSRは利益を生む投資と考えるべきであるというとき、そこに想定されている利益は、リスクの低減やイノベーションによる差別化によって確保できるような直接的利益と、市場と社会の進化にともなう

SR I (社会責任投資) を呼び込み、企業活動のグローバル化への対応を可能とし、優良な人材を惹きつけるという間接的利益である。いかなればCSRは、将来的に利益を増大させ、企業価値を高めることになるという考えである。

「三方よし」はCSRの 【日本の源流】

一方、日本の商家には、「売り手よし、買い手よし、世間よし」からなる三方よしと呼ばれる近江商人に代表される経営理念がある。「世間よし」を取り入れ、商いにおける徳義を重んじた近江商人の利益感は、商人にもかかわらず禁欲的な薄利を受け入れることであった。CSRとは利益感においてこそ異なるものの、それはまさにCSRの日本の源流といってもよいものである。

次回以降は、現今CSRとの比較や、循環型社会に求められる経営理念とは

何かということを念頭におきながら、個々の商家の家訓のなかに含まれている普遍的な考え方を探っていくことにしよう。

末永國紀

●すえながく(にと)1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。(財)近江商人郷土館館長。著書／『近代近江商人経営史論』(有斐閣)、『近江商人』(中公新書)、『近江商人学入門』(サンライズ出版)

●おおはしまこと1972年滋賀県生まれ。東京にてイラストレーションを学び、平成11年から地元滋賀で活動を始める。現在、滋賀県湖北地域のタウン誌にて北近江の風景を連載中。

「MOH」を伝える環境カレンダー

石川県立大学
高月 紘



このたび、「MOH」すなわち「もったいない」「おかげさま」「ほどほど」などの環境を変える日本のことばをテーマにした環境カレンダーを作成しましたので、「MOH」通信にびったりと思ひ皆様に紹介したいと思います。



このカレンダーを作成したのは日本環境保護国際交流会（JAPAN ENVIRONMENTAL EXCHANGE, JEE）です。JEEは1987年に設立された国際的な非営利の市民グループで、環境情報の発信と人的交流、環境教育を目的として活動しています。その活動の1つとして毎年環境カレンダーを作成しており今年で16年目になります。この環境カレンダーは年ごとにテーマを変え、環境に関連したメッセージを日本語と英語で併記し、記念日も環境に特化した日のみを表示し、再生紙、大豆油、

風力発電で作られているなど、まさに環境一色のユニークなカレンダーです。

テーマやメッセージはJEEのメンバーがアイデアを出し合い、イラス（ト）は筆者（高月）が担当しています。

さて、今回のテーマは「環境を変える日本のことば」です。日本人が昔から心豊かに暮らしてきた中から生まれた日本のことばには環境に配慮した節度ある生活態度を表わすものが沢山あります。これらの日本のことばに今一度思いをいたし、私たちのライフスタイルを見直しましょうとのメッセージを込めて作成しました。

では、その内容についてイラスト作者の苦心談も含めて紹介しましょう。

まず、表紙は日本の伝統的な文様であります「市松」や「七宝」を背景に「もったいない」「おかげさま」「ほどほどに」のことばを並べ2007年環境カレンダーのコンセプトを表現しています。

1月は日本のことば「気くばり」をテーマに、こどものすこやかな成長を思う人、車いすの人をいたわる人、地球

にやさしくリサイクル活動をする人が登場します。背景の冬牡丹も草花を「こも」で囲い気くばりをして育てている情景を表しています。

2月は「たたずまい」ということで、昔ながらの京都の町屋のたたずまいを描いてみました。町屋には「しまつのころ」が濃縮されています。細かい切り絵で苦労しました。

3月のことは「心なこむ」です。昔の人と現代の人が仲良く動植物をいたわる心なごむ情景を表現しました。今回のカレンダーでは時代を超えて人物が登場しますが、これこそ時代が変わっても日本人の美しいところは変えないでとの作者の願いが込められています。

4月は「おすそわけ」。山の幸、海の幸を物ぶつ交換する営みは、現代のマネーゲームの世界の対極をなすものではないでしょうか？

5月は「おてんとうさま」です。天にそむかない生活を心がけたいものです。天使や天女を登場させたり、蓮の葉で仏の教えをイメージしてもらおうなどイラスト的には苦労しました。

6月の「おかげさま」はメッセージ

通りで、切り絵と絵の具のイラストを連動させて、自然の恵みへの感謝を描いたつもりです。

7月は「めでる」ですが、最近はずつくりと自然を愛でる機会などなかなか得にくいですが、是非そんな時間をもっと環境の大切さを実感してください。

8月は「ほどほどに」なので、省エネと省資源の生活、シンプルライフをイメージして、シンプルな墨絵でまとめてみました。

9月の「ただいま」「おかえり」は何気ない挨拶ですが、心がつながります。この挨拶が家族はもとより、地域の人々の間にも拡がって欲しいものです。

10月は「てわざ」です。金づくりばかりがはやる世の中ですが、心をこめた「ものづくり」や「文化づくり」の「てわざ」を大切にしたいものです。

11月は「もつたない」。いつまでも飽食の時代は続きません。食のありがたさを忘れた現代生活をマンガ的に風刺してみました。

12月の「紡ぐ」では、過去から未来へ、地域から全世界へ、環境を大切にしている人々の思いや行動をつなげるとともに、

「平和」な世界への思いも紡いで欲しいとの気持ちで描いてみました。

いずれにしろ、是非この環境カレンダーを身近なところに飾っていただき、日々の暮らしの中であたの「環境マインド」を活性化していただければと思います。

High Moon (高月 純)

● たがつき ひろし／ペンネーム HIGUCHI MOONハイムン）1941年、京都府生まれ。京都大学工学部衛生工学科卒。京都大学環境保全センター教授を経て、2005年石川県立大学生物資源工学研究所教授。専門は都市産業廃棄物処理、環境安全化学。工学博士。

著書／「ゴミ問題とライフスタイル」日本評論社、「まんがで学ぶエコロジー」昭和堂他

● 環境カレンダーの発行所はJEE（日本環境保護国際交流会）所在地／京都市北区小山西上総町34 〒6003081 49

TEL & FAX 075-41713417

E-mail: jee@caapc.org

価格二冊900円（税込み）

藤樹先生に学ぶ

その4

井上 昌幸



これまで中里介山著の「藤樹先生言行録」と藤樹頌徳会発行の「藤樹先生年譜」などから愚鈍な大野了佐や熊澤蕃山との関わり方や指導内容について述べてきました。

私の手元に高島市教育委員会発行の「藤樹先生」がありますが、この本には藤樹先生の生涯及び様々なエピソードが書かれており、小学生にも読める内容になっています。もし藤樹先生についてもっと知りたいと思う方は是非この本を入手されることをお勧めします。

今回は年譜に基づき手元の資料等を参考にしながら、藤樹先生の生涯及び様々な逸話などを説明していきたく思います。

- 慶長十三年（一六〇八年）に江州小川村で生まれる。
- 元和二年（一六一六年）九歳の時、祖父とともに米子に行き、加藤侯に仕える。
- 元和三年（一六一七年）十歳の時、加藤侯が転封となり祖父とともに伊予大洲に行く。
- 元和四年（一六一八年）十一歳の時、始めて「大学」を読み、その中に「上は天子から下は一般の庶民に至るまで、すべての人々が身を修める、つまり徳を身に付けることが基本である」と書かれているのを読んで大変感激して、一般の庶民でも学ぶことによって聖人に至れることを理解する。
- 元和五年（一六一九年）十二歳の時、ある日の食事の時に、このように食事が出来るのは、父母の恩、祖父の恩、君

の恩であり、これからはいつもこの恩を忘れないようにしようと思う。

●元和六年（一六二〇年）十三歳の時、賊が屋敷を襲おうとしたので、祖父とこの賊を追い払う。先生は少しも恐れる気配がなく、賊が来たら討伐しようとする気持が顔に現れる。

●元和七年（一六二一年）十四歳の時、祖母が亡くなり、元和八年（一六二二年）十五歳の時、祖父が亡くなる。

●寛永元年（一六二四年）十七歳の時、医師の招きで京都より禅師が来て「論語」を講義されるので、ただ一人て是を聞く。禅師が京都に帰り、学ぶべき師が居ないので「四書大全」を買い、昼に是を読むと人から誹謗されるので、毎夜遅くから「大学大全」を二〇枚（四十頁）ずつ読む。是を繰り返し返して百遍読むことにより始めて理解する。その後「論語」「孟子」を読むがその内容をよく理解する。

●寛永二年（一六二五年）十八歳の時、父吉次が亡くなる。

●寛永四年（一六二七年）二〇歳の時、初めて門人たちに「大學」を教える。

●寛永九年（一六三二年）二十五歳の時、春に小川村に帰る。母を大洲に連れ帰って孝行しようと思んだが、母は故郷を離れることを嫌がったので、仕方なく大洲に帰る。帰路船の中で始めて喘息を患う。

●寛永十一年（一六三四年）二十七歳の時、十月に職を辞して江州に帰る。これより先に家老の佃氏に、母親が故郷に

いて大洲に引き取るうとしたが果たせず、母親を養うために江州に帰りたいので辞職することを認めてほしいと依頼するが許可が下りず、自分は決して他の藩に仕えることはしないと誓った。辞任届を出して脱藩した。当時は脱藩は打ち首に相当するため何時追っ手が来るかも知れないので、京都の友人の家に百日ばかり滞在してお咎めがないことを確認して小川村に帰った。わずか百銭の銀で酒を買いこれを農家に売ってその利益で母親を養い、更に刀を銀十枚で売り、これで米を買い農家に貸す。利息は一般より低かったので殆ど返された。

●寛永十二年（一六三五年）二十八歳の時、先生が云われた。「私は大洲から帰って来てからは少しの閑な時間があるときよく眠れるようになった。」それは武士としての規範や義理から開放されて、母親への孝行ができるようになり、自分の勉強ができるようになって日々が充実するようになったからであろう。

●寛永十四年（一六三七年）三十歳の時、伊勢高橋家から妻（久子）を迎える。容貌はよくなかったが性質は非常に聡明で、どんなことでも先生からの指示に従って行動するような女性であった。

●寛永十五年（一六三八年）三十一歳の時、大洲から大野了佐がやってきて、先生から医学を学ぶ。その内容は「藤樹先生に学ぶ その一」に詳しく記述しているので、ここでは省くことにする。

●寛永十七年（一六四十年）三十三歳の時、夏に「孝経」を読んでその内容が非常に深いので、これより毎朝「孝経」を声を出して読むようにした。

「孝経」については別の機会に説明したいと思っ
ていますが、孔子が弟子の曾子に「孝とは諸徳の根本、教化の根源であり、あらゆる道徳を超越した最高の徳目である」と説いている。

冬に「王龍溪語録」を入手して読むと非常に得るところが多かったが、その内容が仏教的な禪語に近いのであまり深く学ぶことはしなかった。

●寛永十八年（一六四一年）三十四歳の時、伊勢大神宮を参拝する。

冬に熊澤蕃山が来て弟子となる。その内容は「藤樹先生に学ぶ その二」に詳しく記述しているので、ここでは省くことにする。

●正保元年（一六四四年）三十七歳の時、「この年に始めて『陽明全書』を入手することが出来た。これを読んで大学の内容を心の底から理解することが多く大変感銘を受けた。お陰で学問が更に深く進んでいく」と書かれている。その内容は「藤樹先生に学ぶ その三」に詳しく記述しているのので、ここでは省くことにする。

中里介石著「藤樹先生言行録」に記述されている内容の一部を転記する。

「藤樹先生が『大学』の解釈を何度もやってみたが、

格物致知を完全に理解できていなかったの
で心深くこれを憂え緒家の説を読んで研究しても理解
できなかった。そして『陽明全書』を読んで、
致知を教良知と解釈したところを読んで
黙坐心を澄まして考えてみると、長年の
疑問が氷解した。」

この年の冬に^{ふちろうえ} 瀨岡山が二十七才の時に初めて藤樹先生の弟子となる。先生に会った後先生の印象を「先生は徳を積まれた尊敬すべき容貌だけではなしに、聡明で才智があり、凡人の考えなどはとても及ばない。」と人に語った。先生はその話を聞かれて「私はいつも聡明才智を表に出さないようにしているが、時に露出することがあるようだ。岡山は私のことをほめて言ったのであるうが、私にとってはかえって恥とするところである」と云われた。

瀨岡山は仙台伊達家の家臣で時々仕事のため近江蒲生郡に来ていたが、藤樹先生の学徳のうわさを聞いて、門弟の中川氏に仲介を依頼して藤樹先生に弟子入りした。それから先生が亡くなされるまで五年間先生の教えを深く学び、先生が亡くなった後に、京都で塾を開き四十年間藤樹学を多くの人々に教えた。

●正保四年（一六四七年）四十歳の時、「鑑草」と云う本を刊行する。

●慶安元年（一六四八年）四十一歳の時、二月に藤樹書院が出来あがる。

八月二十五日の朝亡くなる。

最初に紹介した高島市教育委員会発行の「藤樹先生」に先生の遺徳をしのぶ文章がありますので転載します。

●熊澤蕃山

先生は生まれつきの性質に君子（聖人）の風格があり、言うこと行なうことが道に適っている人であった。先生は聖人の志を大切にされ生涯努力を積み重ねられたのである。先生が生きておられた間変わらないのは志であり、学問は日に月に進み一所に止まることがなかった。だが残念なことにはその学問は病氣と死にさえぎられて未完成に終わった。もしあと五年生き延びられたならば学問も完成されたことだろう。

●江戸の儒学者佐藤一斎

藤樹先生が亡くなってからすでに百年も経っている。私がかねて先生を敬慕していたが、今初めて徳本堂へお参りすることができた。先生が大事にされた藤は今もなお青々と茂り、松の老木の緑も美しい。人の心はなごやかでいつも春のようである。雲も晴れ吹く風もさわやかである。あたりに住む人は今も礼儀正しいので人に聞かなくても藤樹先生の郷里であることがわかる。

●内村鑑三

藤樹先生は日本の生んだ最も聖人らしい、最も進歩した考えを持つ一人である。先生は有名になることや自分の利益になることを求めないで、ただ人間としての完成に打ち込んだ。先生の評判はひとりでに広まり、教えを

受けようとする人々が集まった。慕って集まる門人の教育に心をこめて打ち込み、師弟共に学問と修養に力を尽くしたのであった。ここに真の先生があり、真の弟子があり、真の教育を見ることができると。

「藤樹先生行状」に「先生、顔色は温和で話される言葉は正しい。精神と気力は安定しており、普段はゆつたりとされていた。人と交わる時の姿は謙遜されているがへつらうようなことはない。いつも余計な話はされないが温厚な態度でおられたので一緒に居る者はうれしそうな様子であった。」と書かれている。

今でも高島市の小川村に行き、藤樹書院を訪れると心が癒されるように思うのは、この村の人たちの心の中に藤樹先生の教えが三百六十年を経ても伝わっているからなのであろうか。

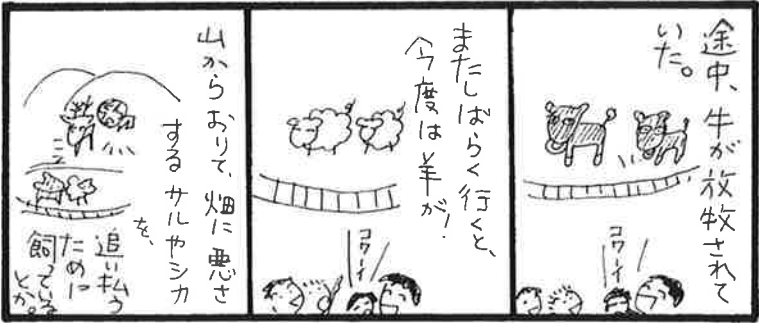
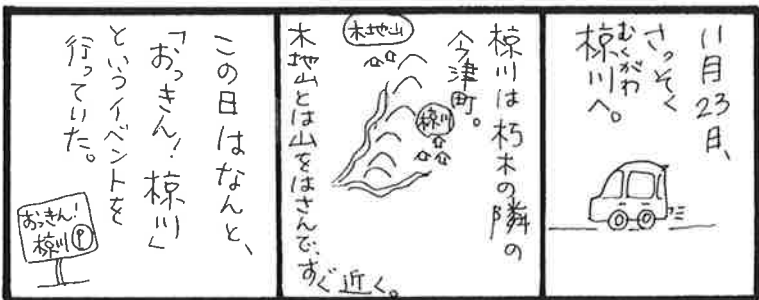
殺伐とした現代において今一度藤樹先生について学ばれることをお勧めしたい。

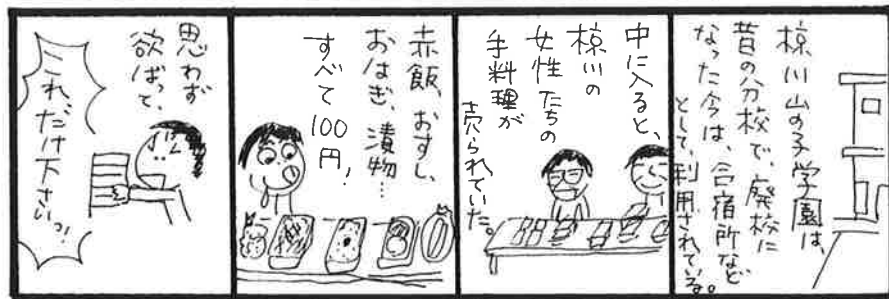
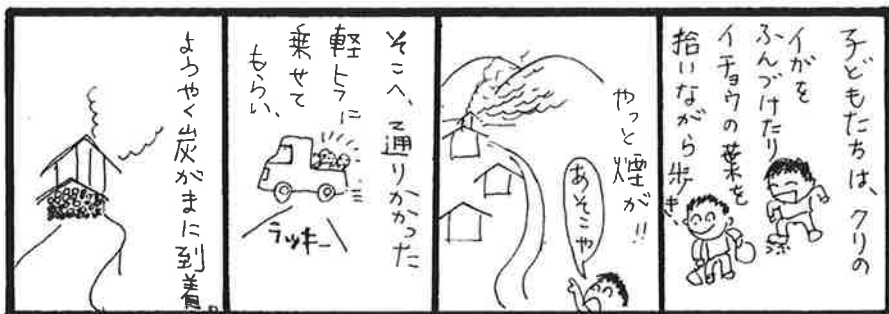
井上昌章

●いのうえまさゆき 1940年1月1日生まれ。2000年日本電気硝子（株）定年退職。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21（滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合）専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人（資格）ISO14000&9000審査員補

朽木 木地山 から 今津町 椋川へ ちよっと 訪村

作: 木江









●オノミユキ (本名 加藤 みゆき) 1974年生まれ。滋賀県平恋賀町育ち。
 1997年に朽木村 (現高島市) に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子どもを子育て中。

わーんと泣いた

今関 信子



イラスト：千田 満

娘が同窓会に出たいという。「息抜きも必要よね」。私たち夫婦は、物わかりよく、孫を預かることにした。

その日、娘は、晴れやかな笑顔で、「七時半には帰るから」と、手をひらひらさせて、出かけていった。ところが、「友だちと夕飯食べることになったから九時過ぎるわ」と、連絡が入った。

時計を見ては、「あと一時間」、「もうそろそろ……」と、待っていたのは、私だけではなかった。九時を回って娘が帰ってきたとき、それまでにここに笑っていた孫が、うえーんと泣いたのだ。そして、娘にしがみついた。私たち夫婦の存在など、彼の意識から霧散してしまつたよつこ。

私は一年生の時、経験した台風のあの日を鮮やかに思い出した。予報がはずれたのだろうか。台風はかなりの勢力を保ったまま接近しているようだった。授業は午前中で打ち切られ、クラスメイトは、お迎えに来た家族に連れられて次々に帰って行った。

ついに私とお隣のまっちゃんだけが教室に残った。先生は手が放せない用事があったにちがいない。途中までいっ

しよに帰る友人のお母さんに、私たちを託した。私の母は必ず迎えに来る人だったのだ。けれど、まっちゃんのお母さんは死んでいた。

友人と分かれる道が来て、母は来なかった。心配する友人のお母さんに、「大丈夫。お母さん、じきに来るから」と笑顔を向け、私とまっちゃんは風に向かつて歩き出した。風も雨も強くなっていた。一本しかない傘がミシミシと音を立てて、今にも壊れそうだった。私とまっちゃんは、肩を寄せ合い傘を握り締めて歩いた。横殴りの雨は二人を叩き、唇をかむ二人の口に流れ込んだ。髪の毛から流れ落ちる滴は、襟首から背中を滑り落ち、二人ともびしょ濡れだった。二人は体を寄せ合って歩きつづけた。そして、森を抜ければ家はすぐと言ったところに、たどり着いていた。森を出たところで、私はみつけた。「あつ、お母さんだ」。私は、握っていた傘を放り出して、まっちゃんを突き飛ばした。私は走った。お母さんの胸をめがけて、突進した。大きな声で、「お母さん、うえーん」と泣きながら。激しい雨の

中でも、風の中でも、唇を飲んで声をかさなかつた声が、サイレンのように鳴り響いた。一滴もこぼれなかつた涙が、あふれて滝のように流れた。

嵐と戦った戦友のことなど、まったく考えていなかった。

まっちゃんが、道路の端で、私と母さんを見ていた。母さんの腕に抱き留められている私を、呆然と見ている。

母さんは、おんぶひもをくりくりとほどいた。自動車など庶民のものではない時代だった。母さんは、まっちゃんをおぶった。私はあわてた。「母さん、それ、まっちゃんよ」。叫ぶ私に、母さんは言った。「ああ、信子は母さんの子だ。いつでもおんぶができる。だから、ちよつとだけまっちゃんに貸しておあげ。えちかつたね、二人とも」。母さんは、私を、ひよいと抱き上げて、ゆらつとも揺れなかった。

母さんの肩越しに、私たちは顔を合わせ、ふかふか、ふかふか、いつまでも笑った。恥ずかしくて、身体の花が熱かった。



● いまぜきの、がこ11942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉「小犬の裁判はじめます」1987年童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。「さよならの日のねずみ花火」1995年国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で『寺子屋』づくり」2003年PHP研究所 など多数

M. Senda

● せんた みつる11950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーション・インスタジオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告エディトリアルを中心に活動中。

一番人気・もったいない 二番人気・ほどほどに 三番人気・おかげさま

センスあふれる川柳、ありがとう
投票してくれて、感謝感激



昨年9月から、当通信の森建司代表の講演を聴講者を対象に「MOH川柳」を集めてきました。多くの作品の中から、45句をピックアップし10月25日〜27日に開催された滋賀ビジネス環境メッセをはじめにレイカデ

イア大学など、たくさんの方に投票していただきました。今回は投票結果を集計しましたので、発表します。
“もったいないのM・おかげさまのO・ほどほどにのH”の川柳をつくっていただくことで、楽しく理解して

いただき、遊び感覚で好きな作品を選んでいただくこう、という主旨ではじめたこの川柳選手権。思いがけない反響でした。

最初は「えー！難しい」と及び腰だた学生さんも、サラサラっと書いて「面白いねえ」と笑顔で川柳を投句してくれました。メッセ会場では、家族で「どれがいい？」と選んでいただく姿も見かけました。「川柳を読むと考えさせられるねえ」という方もおられました。

さまざまな反応をいただき編集部一同感謝いたします。また、投票にあわせ新たに川柳を作っていたいただいた方もたくさんおられました。来年の滋賀環境メッセにあわせ、投票していただく予定です。お楽しみに。

今回は、近江環人のプロジェクト実習・中間報告（12月16日）で川柳の分析を発表しました。あわせて誌面で報告いたします。

輝かしい5位に入選された方々、おめでとうございます。ご協力深く感謝いたします。

近江環人コミュニティ プロジェクト実習 1 中間報告

■提出者:辻村 琴美

■提出日:平成18年12月16日

1. テーマ

環境と共存する倫理の普及

2. ならい

人は「もつたない・おかげさま・
ほごほご」を日常生活の中であら

とらえているか。「もつたない・
おかげさま・ほごほご」を現代の
倫理によりがえらせる方法として川
柳作りを呼びかけ、読み取る作業を
実施した。

3. プロジェクト名

MOH川柳（もつたない・おかげ
さま・ほごほごに川柳）

4. 目的

もつたない、おかげさま、ほごほ
ごにという言葉の使用から類推され
る生活意識を分析し、3つのことば
の使われ方を整理した。

5. 方法

- ①環境倫理の講演聴講者、大学3年
生（同志社大学・龍谷大学）および
MOH通信読者より川柳を募集（45
句）
- ②滋賀環境メッセ来場者（50名）、
講演聴講者（80名）が投票（130
名210票、複数回答有効）
- ③集計

6. 結果

- ①「もつたない」責任義務をあら
わす傾向が強く、「ゴミ、食事、時間・
水・資源・エネルギー」言葉で使用
される。最も長くつかわれ（36%）
男性がすこし多い（対比2句）。
- ②「ほごほご」たしなめをあらわ
す傾向が強く、生活・衣食住、お金
を取り上げている。2番目に使用さ
れ（31%）男女差は見られない。
- ③「おかげさま」感謝の意味で自然
や親、地域社会世間に対して使用さ
れる。もっとも使用回数は少なかつ
た（13%）が男性に多い。

- ④なし「18%女性がやや多い。分類
するとOが4句、Hが3句、Mが1
句。

※川柳11年齢は20代がもっとも多く（74%）、男女差は女性がややすくない（1名の差。男性の年齢構成は20代（56%）40代（19%）。女性は20代（88%）40代（8%）。

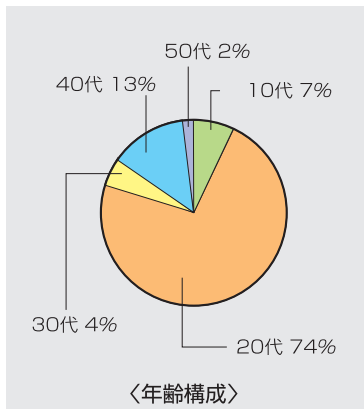
16の都道府県から応募があったが関西圏、福井県が半数を上占める。大学での募集のため

〈MOH川柳投票〉

総人数150名のうち投稿者は125名。うち9名は投票がなく川柳の投稿のみだった。

投票と同時に川柳の募集も実施したところ89句の投稿があった。

投票者の男女構成は男性45%、女性38%、記載なしが17%。年齢構成は10代6%、20代29%、30代6%、40代6%、50代11%、60代26%、70代10%、80代4%、90代2%。年齢に幅があるのは環境、ビジネスメッセ来場者と講演聴講者を対象にしたため（老人会の講演があったため高齢者が数パーセント見られる）。



男女構成の内訳は10～20代が男64%

・女36%、30～50代が男25%・女75%、

60～70代は男63%・女37%、80～90代

は男50%・女50%。地域構成は滋賀が

60%、京都・大阪はそれぞれ8%。も

つたいないに投票したのは32%、ほど

ほどにが27%、おかげさまが18%、使

用していないのは23%。

●投票の傾向：投票傾向はばらついて
いた。1位が9%、2位7%、3位5
%、ほか66%と僅差。

●反応：大学生男子の感想に「川柳を
見ていると、考えなおす点が多々ある」
と記載があった。また、自分の川柳を
書く人も全体の40%に見られ、興味を
引く題材であることが分かる。継続し
た募集と投票で倫理観の浸透が期待で
きそう。

1位

ほごほごに それが一番

むすかしい(19才女性 静岡)

支持層は女性が多い(70%)。年齢
層は20代が40%で30代以上が60%。

2位

おかげさま その一言が

日本の美20才女性 滋賀

支持層は男性が多く(60%)。特に年

齢層が高い40代以上が80%。92才男

性が支持。

3位

もつたいないゴミになるのは

君じだい(21才女性 三重)

支持層は女性に多い(80%)。年齢

層は40才以上が多かった。

4位

きょうもまた 何もできずに

時間経つ(21才男性 東京)

支持層は女性に多く(80%)、20代

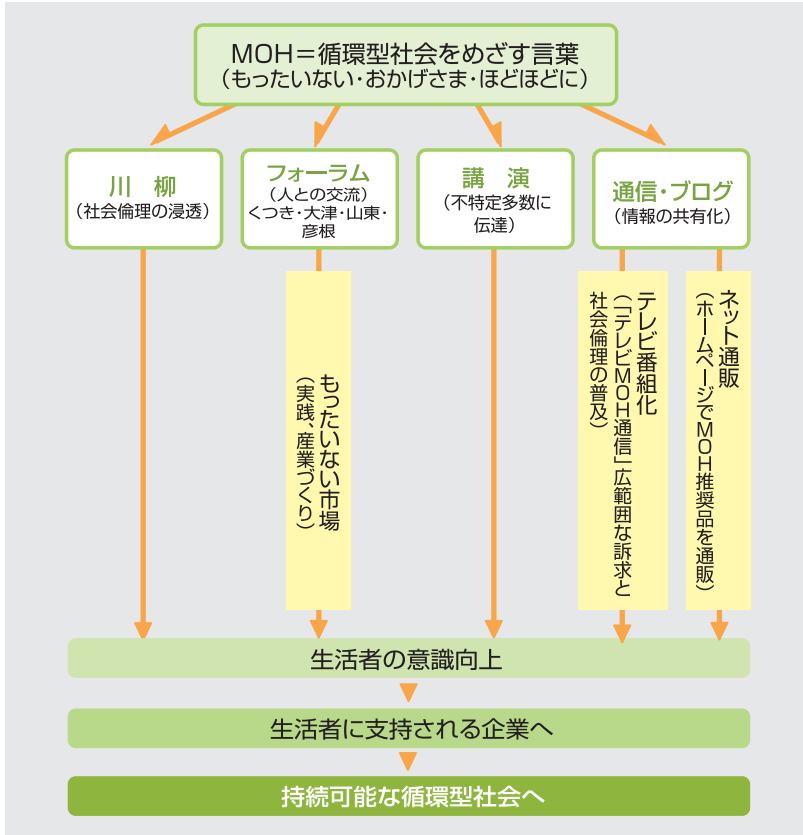
の支持が多かった(80%)。

5位

当たり前 考え直そう

日々感謝(25才女性 奈良)

支持層は男女同数。20代から30%の
支持があった。男女不明も2名あっ
た。



<MOH(も)の広がり>

【総論】

もったいないが最もつかわれており、おかげさまは浸透度が低い。もった

ない・おかげさま・ほどほどにとともに、言葉の意味を理解して使用されている。

● 展開 ●

人間が変わり、会社が変われば社会も変わる

気がなるころは今後の展開です。 「MOH通信」(年4回発行)を軸に、「MOHフォーラム」(年四回)、「MOH川柳」、「MOHホームページ」(推奨商品販売)、「MOHテレビ番組」と夢は広がります。

これらを続ける事により、皆様から共感を得ることが大切です。共感が増えれば、それに答えるよとする企業が増えます。共感する企業が増えれば、社会の枠組みを変更せざるを得ません。そうすることで、社会は変わるのです。人間が変わり、会社が変われば社会も変わる。それを信じて、MOHは歩みます。皆様のご支援をお願いいたします。(編集部)

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
10月～1月の講演をダイジェスト版でお知らせします。



レイカディア草津会場にて、演者は森建司

- 日時：2005・10・25
- 主催者：あわらし商工会
- テーマ：プラザ見学と講話
- 参加者：35名
- 場所：新江州

あわらし商
工会先進企
業視察研修

- 日時：2005・10・12
- 主催者：高槻商工会
- 議所：青年部
- テーマ：循環型社会の会社経営
- 参加者：75名

高槻商工会
議所青年部
30周年記念
講演

- 日時：2005・10・11
- 主催者：滋賀経済産業協会
- テーマ：プラザ見学と講話
- 参加者：25名

滋賀県経済産業協会ロジス
イクス・環境委員会合同研修

- 日時：2006・10・27
- 主催者：滋賀県レイカディア大学草津校
- テーマ：環境倫理の生き方を考える～もつたない・おかげさま・ほどほどに～
- 場所：滋賀県立長寿社会

滋賀県レイカディア大学
草津校必修講座

- 日時：2006・10・26
- 主催者：明生会
- テーマ：もつたない(M)・おかげさま(O)・ほどほどに(H)
- 場所：曾根公民館
- 参加者：80名
- 内容：1.もつたない 2.おかげさま 3.ほどほどに 4.今求められる倫理とは 5.MHO運動にご協力を

曾根明生会



- 日時：2006・11・16
- 主催者：滋賀県レイカディア大学米原校
- テーマ：環境倫理のライフスタイルを考える～もつたない(循環)・おかげさま(共生)・ほどほどに(抑制)～
- 場所：米原文化産業交流会館
- 参加者：140名

滋賀県レイカディア大学
米原校必修講座

- 日時：2006・10・31
- 主催者：立命館大学情報理工学部
- テーマ：環境倫理の企業道を考える～もつたない・おかげさま・ほどほどに～
- 場所：長浜市浅井会館
- 参加者：80名

立命館企業連携プログラム

- 参加者：250名
- 内容：1.自社事業の自己矛盾 2.ライフスタイルを変えるー新しいビジネスチャンスを見出す 3.生活者の意識改革 4.循環型社会(持続可能社会)の具体像

福祉センター

● 聖泉大学進路保護者懇談会

日時：2006.11.19

● 主催者：聖泉大学

● テーマ：経済至上主義社会から循環型社会へ～価値観の変化がどう企業を変えるか～

● 場所：聖泉大学

● 参加者：90名

● 内容：1.経済至上主義はなにをもたらしただか 2.循環型社会(持続可能型社会)はどんな社会か 3.学問が役立つ世界と役立つでない世界 4.「商い」の語源 5.丁稚奉公から学んだ事

● (社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会 情報交換会

日時：2006.11.24

● 主催者(社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会

● テーマ：環境倫理の企業道を考える「もったいない・おかげさま・ほどほどに」

● 場所：京都工業繊維大学

● 参加者：30名

● 新江州営業研修

日時：2006.11.25

● 主催者：新江州(株)

● テーマ：会社を支える営業マンの技量

● 場所：新江州本社会議室

● 参加者：30名

● 滋賀県なりゆき会

日時：2006.11.29

● 主催者：なりゆき会

● テーマ：女神の前髪をつかめ意識を変えればチャンスは向こうからやってくる

● 場所：滋賀県庁別館

● 参加者：15名

● 内容：1.カウントダウンからカウントアップへ 2.石の上にも三年、桃栗三年柿八年、十年昔 3.いじめる上司は

反面教師 4.感情は表に出さず、冷静に対処する 5.相手の立場に立てる想像力を鍛えてね 6.自分と家族を大切にして欲しい 7.MOH通信の影響

● 演者：辻村琴美

● 「MOH通信」執筆者懇談会6

日時：2006.12.8

● 主催者：MOH通信

● テーマ：15号、16号の内容、

議題、

● 演者：辻村琴美

● 場所：草津エストピアホテル

● 参加者：13名

● 長浜みらい産業プラザ第23回例会

日時：2006.12.14

● 主催者：長浜みらい産業プラザ

● 場所：長浜商工会議所

● 参加者：30名

● 演者：加藤尚武

● MOHフォーラムについて

● 場所：草津エストピアホテル

● 参加者：13名

● 長浜みらい産業プラザ第23回例会

日時：2006.12.14

● 主催者：長浜みらい産業プラザ

● 場所：長浜商工会議所

● 参加者：30名

● 演者：加藤尚武

● エコネットワーキング例会

日時：2006.12.21

● 主催者：エコネットワーキング

● テーマ：コミュニケーションと市場

● 「もったいない市場の提案」

● 場所：滋賀会館交流室

● 参加者：25名

● 内容：1.大量システムの功罪 2.新しいコミュニケーションの創出 3.「もったいない(循環)・

おかげさま(共生)・ほどほどに(抑制)」 4.市場は経済活動の場だけでない 5.今日の経済力は死守しなければならぬ

● 演者：加藤尚武

● 場所：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 参加者：60名

● 内容：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 場所：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 参加者：60名

● 内容：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 場所：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 参加者：60名

● 内容：森建司講演、ふるまい料理での交流

● 萬世協会「新春講座」

日時：2007.1.14

● 主催者：萬世協会

● テーマ：「もったいない・おかげさま・ほどほどに」「生物資源産業は農業と言えるのか」

● 場所：萬世協会 麦の家

● 参加者：60名

● 内容：森建司講演、ふるまい料理での交流



露の臺

三山 元暎



さし絵：中川 善雄

二月、湖国は雪間に春を感じる季節である。フキノトウが例年よりひと足早く頭を持ち上げてきた。

露のたうほろほろすがし利休箸 丈蘭

朝取りのフキノトウを細かく刻んで朝餉のみそ汁に浮かせると、苦味を伴った香りが口いっぱい広がりに、春がやってきたという実感がする。

「新しき露の臺かな／珍しき苦き香ぞする／その露の臺／一つ刺し二つ刺し／竹の小串に三つ刺して／さて味噌つけて火に焼きて／あな苦さよと一つ食べ／あなうまさよと二つ食べ／あないつくしと三つ食べて／さてさびしやと我いたり／春さきの夜の淡雪の」。 「露の臺」と題する北原白秋の歌だ。

冬は青物野菜が少ないこともあり、昔から早春の旬のものとして珍重された。平安初期に編修された延喜式には、宮中へ相模の国や武蔵の国から献上されたという記録があるという。当時は白秋の詩のような食べ方でなく、フキと塩、米を混ぜ漬けるとある。

フキノトウは固く苞葉に包まれたこの頃がいちばんの美味で、味噌練りや天ぷらにしていた。野趣に富む食べ方の一つに「たまごかけご飯」がある。細かく刻んで放り込むと、これが実にうまい。

正月七日の春の七草に始まり、フキノトウ、次は「コノヒル、ツクシ、ワラビ、ゼンマイ、タラノ莢、ユリワザビ、コシアブラ」等々、楽しい山菜シーズンの到来である。

指先に風の離れぬ野の摘む

角田よし子

三山元暎

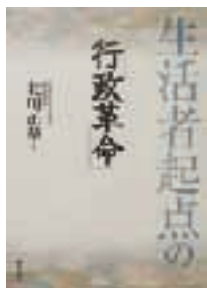
●みやまもとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町（現・米原市）生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数。税理士。

本の紹介

最近入手した、
気になる本を
ご紹介します。

生活者起点の 「行政革命」



- 著者／北川正恭
- 発行所／ぎょうせい
- 価格／1905円＋税
- 内容／新しい行政のビジネスモデルへの挑戦！全国の

自治体に影響を与えた三重県の県政改革。北川正恭前知事が、初めて改革の真髄を明らかにする。

建て替えずによみがえる 団地・マンション・コミュニティ 団地再生まちづくり



- 編著／NPO団地再生研究会・合人社計画研究所
- 発行所／水曜社
- 価格／1800円＋税

●内容／建て替えずとも再生できる！！海外の成功事例から国内の活動研究、エコインフィルなどの工法まで網羅。第一線の研究者たちによる、再生のための実践書。

百年の食 食へる、働く、命をつなぐ



- 著者／渡部忠世
- 発行所／小学館
- 価格／1800円＋税
- 内容／食の安全は農業の

再生から。耕す楽しさ、実る喜び、食へる嬉しさ当たり前の暮らしに学び、百年先を見据えた「食」のありようを考える。

口福なお菓子



- 編集・発行／NPO法人たねや近江文庫
- 内容／深く美しい和菓子の世界を、写真とエッセイで紹介。

3つの危機と 1つの期待

つじむらひつみ

〈危機——気候〉

●今年の冬は、暖かい。エルニーニョの影響だとか。12月になっても紅葉する山を見ていると、自然の危機を感じる。日本の四季がどこかおかしい。琵琶湖に沈む美しい夕日を見ながら、温暖化現象“このとばが、脳裏を掠める。”

〈危機——自然体系〉

『ダーウインの悪夢』という映画がある。「ダーウインの箱庭」と呼ばれるほど豊かな生態系を誇っていたアフリカのビクトリア湖に外来種ナイルパーチが放流されたことで状況は変化する。大魚産業が誕生し経済は発展。だが、カメラはその陰にある貧困・売春、エイズ、ストリートチルドレン、環境破壊を映し出す。監督・構成・撮影はフーベルト・ザウバー氏。ビタースエンド配給。2006年アカデミー賞長編ドキュメンタリー賞ノミネート。同年セザール賞、最優秀監督作品賞など多数を受賞した傑作(パンフレットより抜粋)。

●ひとことではない。私たちが気付かないうちに自然・経済・健康・平和の環境は悪化する。琵琶湖を第二のビクトリア湖

にしないためにも、琵琶湖を知ろう、使おう、考えよう。

〈危機——人口〉

ついに来たか。

12月に厚生労働省が日本の総人口が2055年に8993万人に減少すると発表した。驚くべき内容だ。一人の女性が産む子ども数は推定値を1.26人と設定した数値で、大幅な下方修正だ。

55年の年代構成は65歳以上が約41%と現状から倍増。14歳以下は約8%に減少。

死亡率の中心推計は、55年の平均寿命は男性83.67歳(05年は78.53歳)。

女性90.35歳(05年85.49歳)。

年少人口(14歳以下)は約752万人、

生産年齢人口(15〜64歳)は約4595万

人、老年人口(65歳以上)が約3646万

人。一人の高齢者を働き手1.3人(現在3.3人)で支える計算だ。

つまり「1990年生まれの女性にはほぼ4人に一人が生涯未婚のまま、結婚しても子どもは1.7人」。子どもが1割にも満たない状態になると、持続可能な社会は創れない。

内閣府も「原因がわからず、対策をとつたとしても10年単位の時間がかかる」。

こんな状況の中で、じわじわと「海外流出組」が増加する。日本総合研究所の

分析によると2000〜5年にかけて海外流出した20〜40歳代派47万人。1990〜95年の12万と比較すると約4倍増。働き盛りが、海外へ……。

今後は労働力の確保をめぐる「人材の争奪戦」も起こりかねない。

日本や地域が人をひきつける設計図を描けるかどうか。

●まずは、子どもを生み・育てましょう。子どもは社会の宝。虐待をせず大事に育てましょう。お年寄りには安らかに逝きましよう。そして、「ここに暮らしたい」と思える家を、家族を、地域をつくりましよう。政府に頼らず、自分で解決していくほかはありません。

〈期待——前向き〉

嘉田知事の定例記者会見(12月21日)によると、「来年は『もったいない』を生かす県政を予算や人事に反映させた。財政難の中で無駄使いをせず、前向きに取り組む」。

(京都新聞平成18年12月21日記事より抜粋)

●長い目で期待しましょう。女性の力を引きだして欲しいし、女性が自ら手を上げて、先頭に立つ滋賀県を作りたい。と、つじむらは思います。

読者の声

読者の方からいただいたお手紙の一部をご紹介します

●12号に掲載されていた「ハートタッチ」のストーリーでの「もうひとふんばり」。職業柄、若い人のあたたい心遣いに感動することが多いので共感しまし……。弘中史子

●MOH通信12号拝読しました。なんとセンスのいいことが……。感動とともに、これはずっと読みたい気持ちです。……………ゴジカラ村

聖泉大学・聖泉短期大学

進路保護者懇談会アンケート結果

より

●現代の考えは、あまりよくないのが分かった。(人間心理学科一年生)

●今、消費社会から持続社会へ変わると言われているが、具体的には理解できていなかった。この講義を聴いて、大半は理解できた。これから安いものだけでなく、高価でも長く使えるものを使っていくことが大切だと感じた。(人間心理学科二年生)

●就職するための話ではなく、人生に関わるような話だった。社会に出ても、見えないところ、外からの視

ても、見えないところ、外からの視点を取った。貴重な話だった。中小企業に対して見方が変わった。(人間心理学科三年生)

●いつも何気なく生きていくけど、結構、地球はピンチなんです。川柳を読んで、思い直すことがいろいろありました。(企業マネジメント学科)

●講演会のお話がとても参考になりました。現場(現状)を少しかいま見ることができました。(保護者)

NPO法人麻生里山センター

「秋の夜長を楽しむ夕べ」開催しました

9月16日くつきの森やまね館で「持続可能な社会を考えるフォーラム」とジャズの生演奏を楽しむ夕べを開催しました。循環型社会を考える広報誌「MOH通信」との「ラボレーション」で開催したもので、「森の中」で持続可能な社会について考えるところめずらしい設定でもあり、とても印象深い、有意義なフォーラムとなりました。

(くつきの森ニュースレターより)

《次号予告》

2007年5月発行予定

■特集

<滋賀の取組み>

【対談】

- 滋賀県・嘉田由紀子知事+森代表(滋賀の行方)
- お茶の水女子大学・郷通子学長+森代表(社会を変える女性の役割)

【取材】

- 近江八幡・島小学校(子どもたちの自治)
- 長浜農業高校(次世代の農業)
- 千成亭・上田会長(橋本商店街の振興)
- ニューパワー(手づくりのソーラー)
- 古民家再生
- 滋賀県産材の家づくり

編集後記

我が家にも小さな危機が渦巻いています。長男・敏之の就職活動。「どこに就職したらいいか、どんな職業につけばいいか、自分がワカラン」らしく、モンモンとした日々を送っています。「就活は自分探し」とは、よく言ったものですね。「エントリーシート10社は出しや」と喝を入れては見たものの、「危機感あるから大丈夫」と、いなされました。お手並み拝見といきましょう。……………ことみ

《M・O・H通信》購読受付中!

あなたも「M・O・H通信」を購読しませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電

《M・O・H通信》購読申込書

フリガナ		年齢	希望口数
お名前			1口=3,000円
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

----- キリトリ線 -----

M・O・H通信 Vol.15 (通巻16号) 2007年2月25日発行

●編集・発行/新江州(株)
循環型社会システム研究所

M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむらこことみ

編集協力 稲垣重雄

村山明子

寺川智美

鹿取香代

取材 細井美保

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

平田尚加

印刷 新江州(株)情報C

ブログ 松崎和弘

●ご協力

<滋賀県>

琵琶湖環境部水政課 琵琶湖環

境政策室

エコライフ推進課

教育委員会
商工労働部
琵琶湖環境科学研究センター
(社)滋賀県社会福祉協議会
高島市

<執筆者懇談会>

内藤正明

海東英和

下西康嗣

末永國紀

花田真理子

今関信子

山崎隆

三山元暎

加藤みゆき

本間義典

●支援

新江州(株)

F526-0111

滋賀県長浜市川道759-3

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://shiga-saku.net>

<<http://shiga-saku.net/>>

キーワード=moH

[購読費振込先]

M・O・Hの会 代表 森建司

●滋賀銀行 長浜支店 普通 136987

(モウノカイ タイヒョウ モリケンジ)

●長浜信用金庫 本店 普通 0577468

(モウノカイ タイヒョウ モリケンジ)

●びわこ銀行 長浜支店 普通 721691

(モウノカイ タイヒョウ モリケンジ)

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。